

神奈川県における 自殺の状況 (令和6年版)

令和7年7月31日
第39回 かながわ自殺対策会議



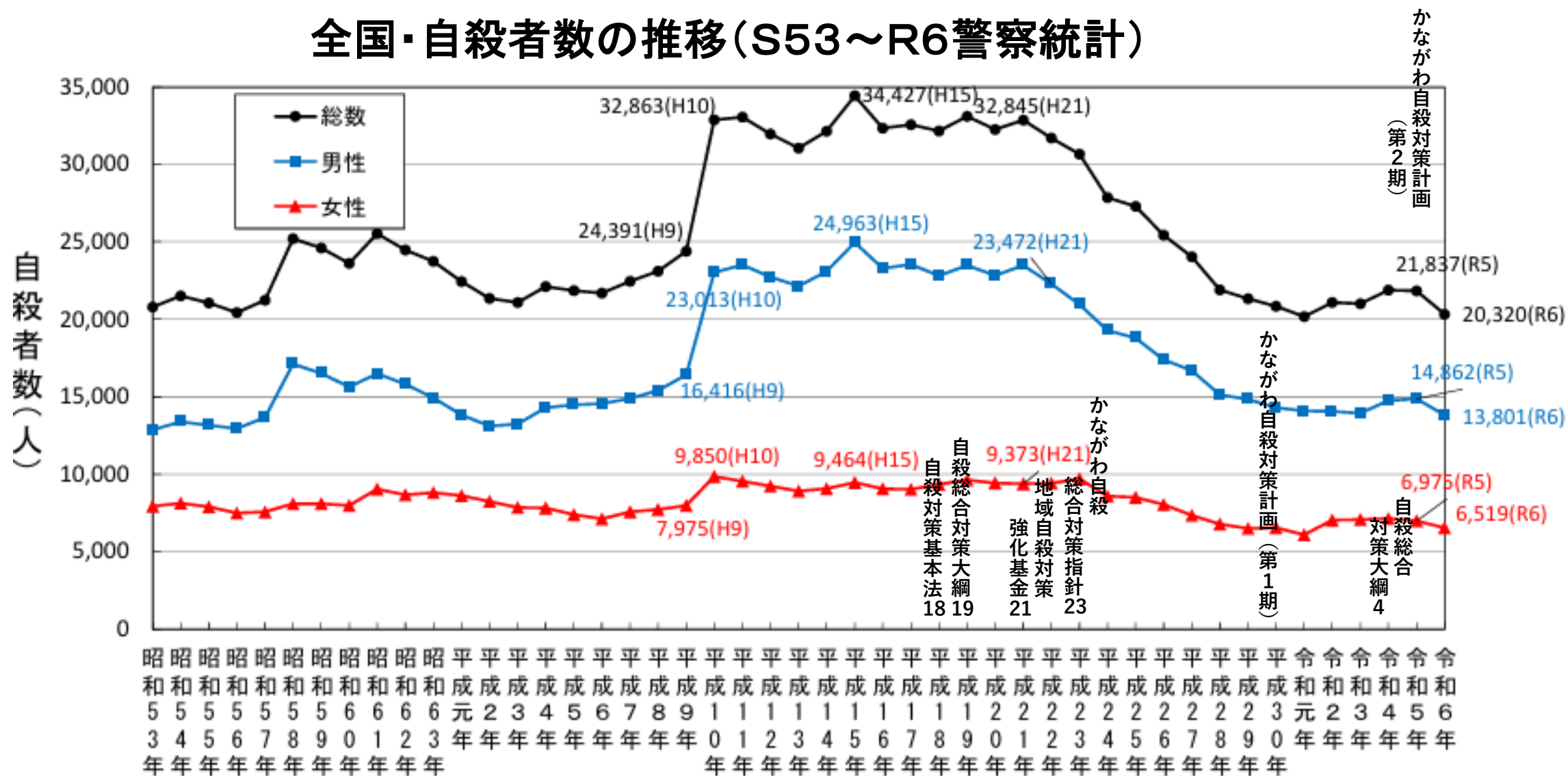
神奈川県自殺対策キャラクター

いちろうくん・やまゆりちゃん

施策展開(かながわ自殺対策計画 第2期)

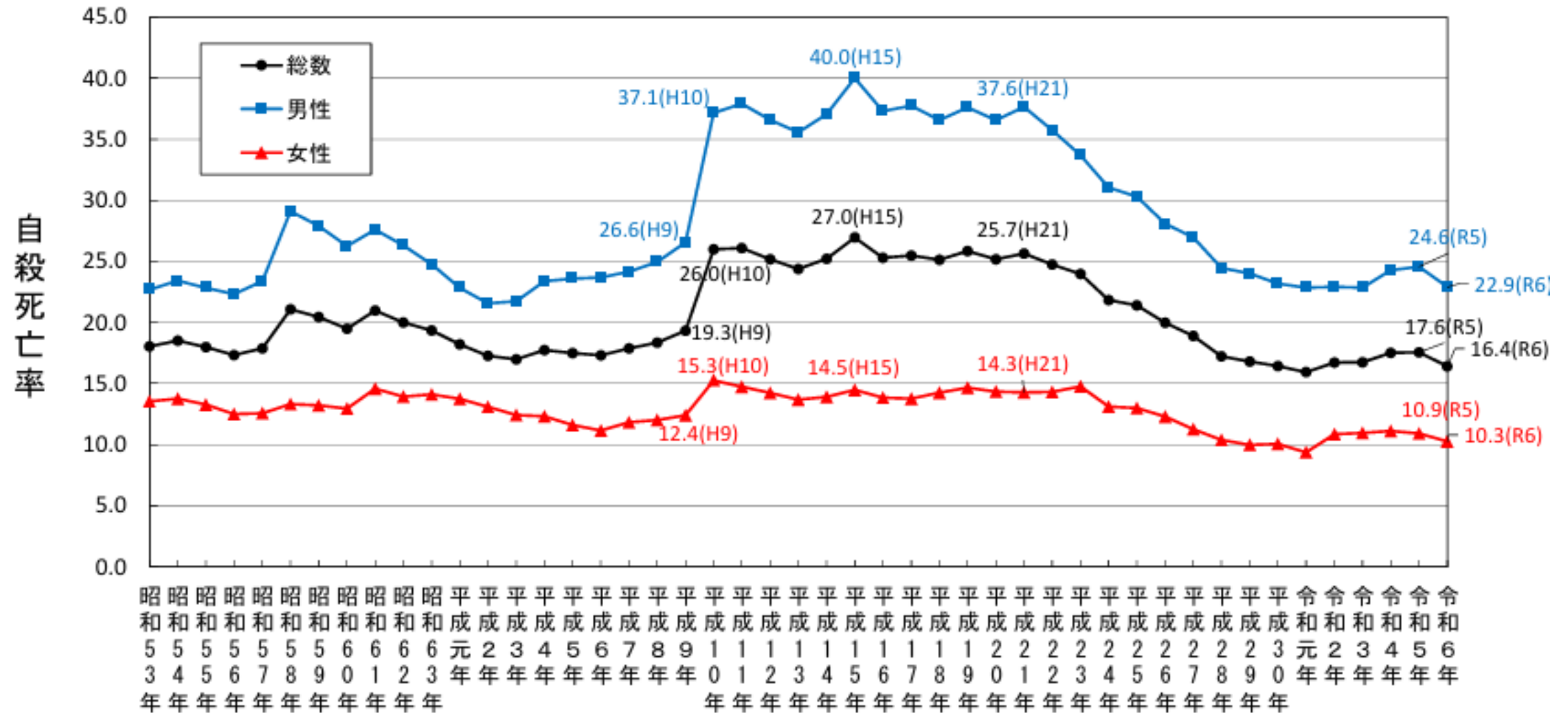
1. 地域レベルの実践的な取組への支援を強化する
2. 県民一人ひとりの気付きと見守りを促す
3. 自殺対策に係る人材の確保、養成および資質の向上を図る
4. 心の健康を支援する環境の整備と心の健康づくりを推進する
5. 適切な精神保健医療福祉サービスを受けられるようにする
6. 社会全体の自殺リスクを低下させる
7. 自殺未遂者の再度の自殺企図を防ぐ
8. 遺された人への支援を充実する
9. 民間団体との連携を強化する
10. 子ども・若者の自殺対策を更に推進する
11. 勤務問題による自殺対策を更に推進する
12. 女性の自殺対策を更に推進する

全国・自殺者数の推移(S53～R6警察統計)



資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

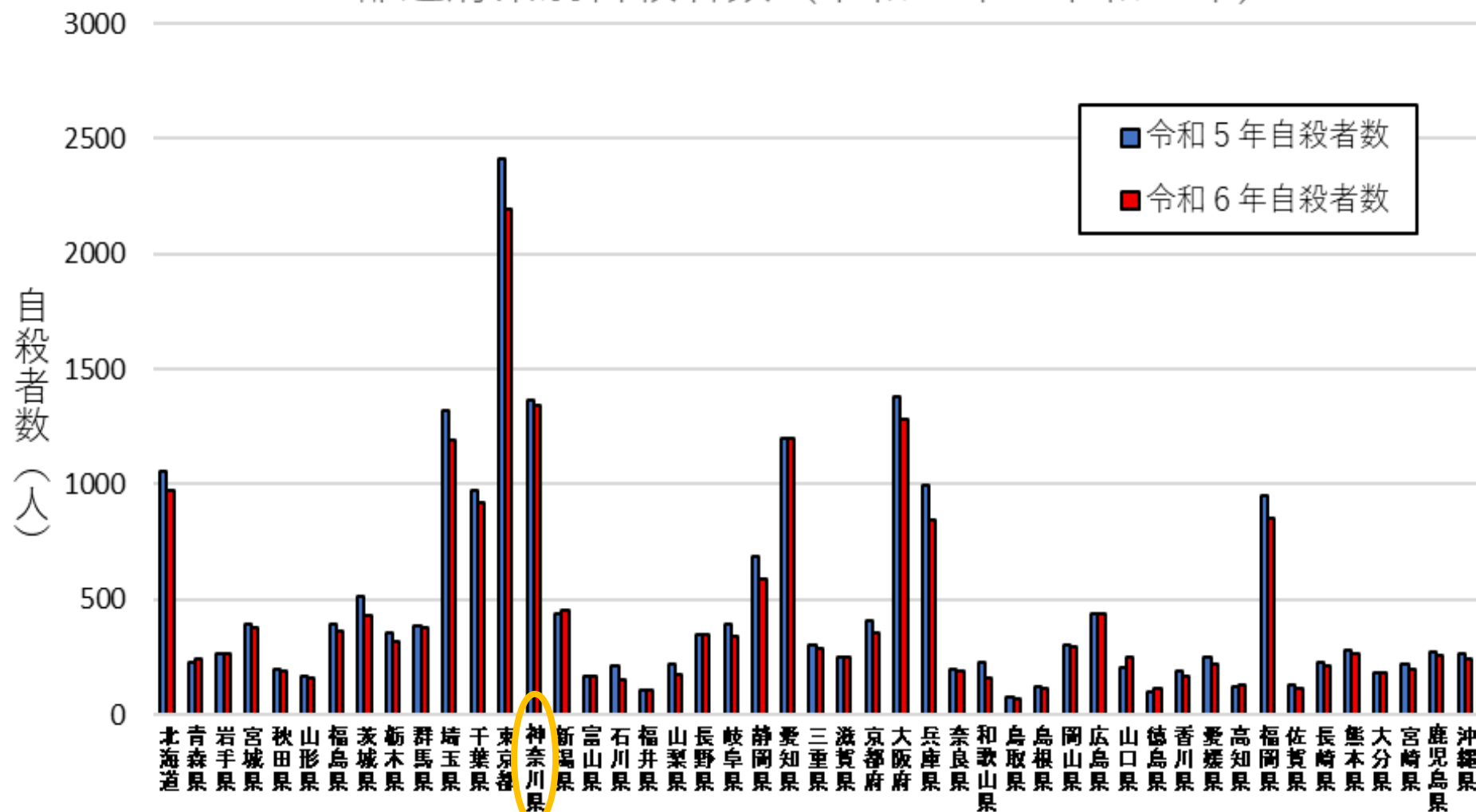
全国・自殺死亡率の推移(S53～R6 警察統計)



※ 自殺死亡率は、人口10万人当たりの自殺者数である。

資料：警察庁自殺統計原票データ、総務省「人口推計」より厚生労働省作成

都道府県別自殺者数（令和5年・令和6年）



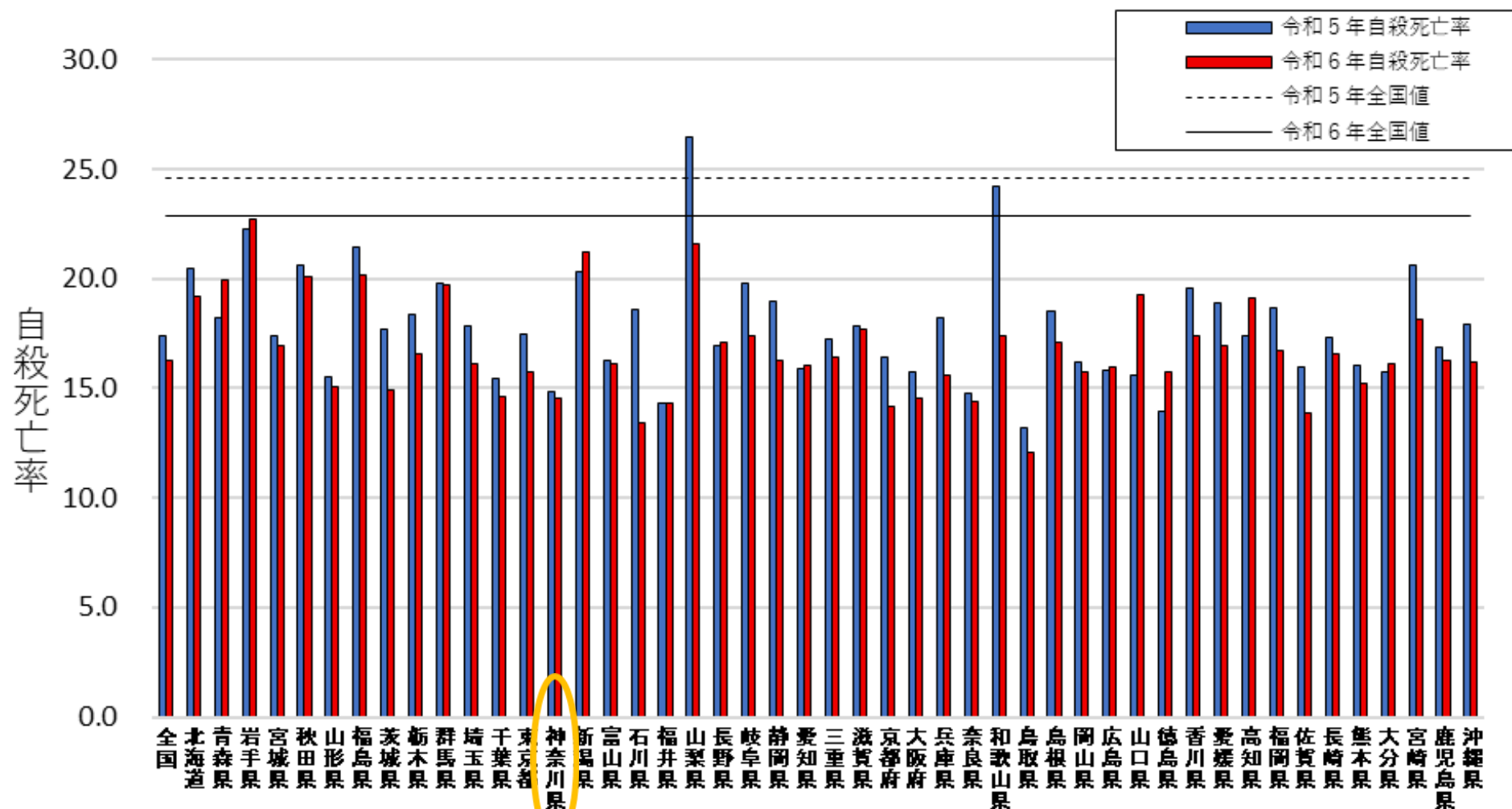
※ 自殺者数は発見された都道府県別に計上している。

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

自殺者数(R 6)		
	低値	高値
①	鳥取県 65	東京都 2193
②	福井県 108	神奈川県 1342
③	佐賀県 111	大阪府 1279
④	島根県 111 ※3位外	愛知県 1201
⑤	徳島県 112	埼玉県 1189
全国	20,320	

出典：厚生労働省令和6年中における自殺の状況

都道府県別自殺死亡率（令和5年・令和6年）

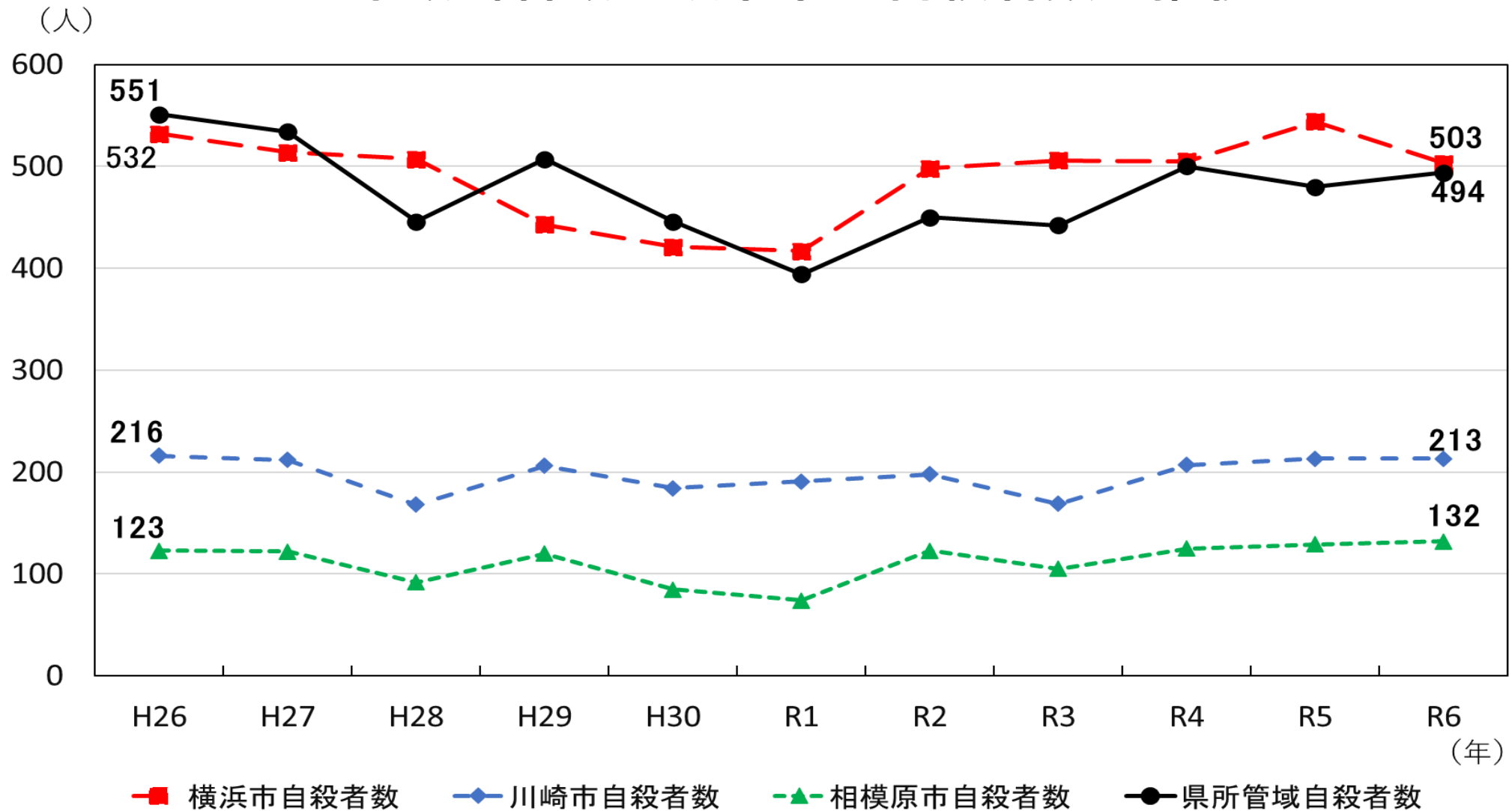


※ 自殺者数は発見された都道府県別に計上している。
 ※ 自殺死亡率は、人口10万人当たりの自殺者数である。

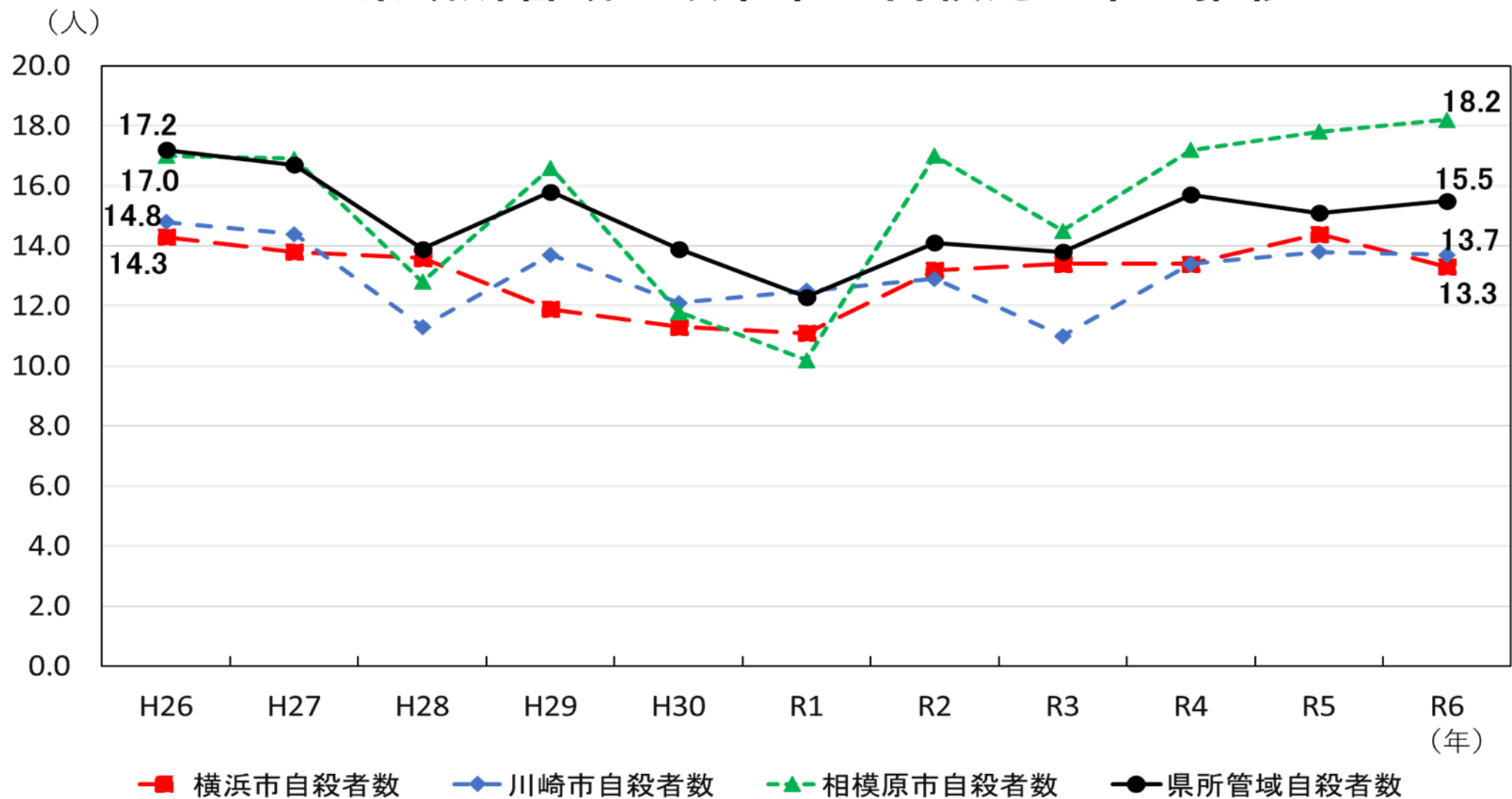
資料：厚生労働省ホームページ掲載の各年の
 「地域における自殺の基礎資料」の
 B6表(県・発見日・発見地)より

自殺死亡率(R 6)		
	低値	高値
①	鳥取県 12.1	岩手県 22.9
②	石川県 13.4	山梨県 21.9
③	京都府 13.9	新潟県 21.4
④	佐賀県 14.0	福島県 20.5
⑤	福井県 14.5	秋田県 20.4
全国	22.9	
⑤	神奈川県 14.5	

県域所管域・政令市 自殺者数の推移

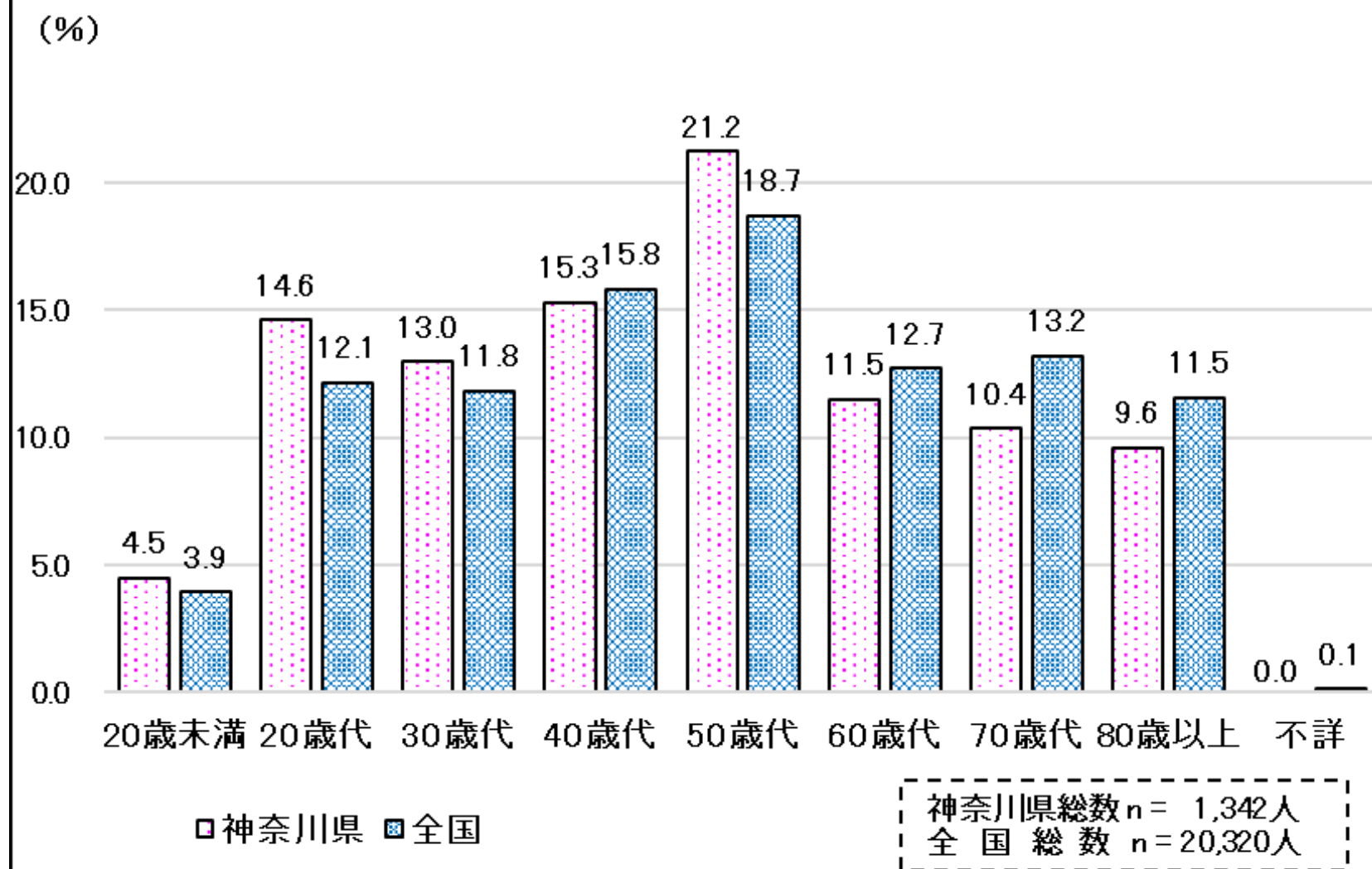


県域所管域・政令市 自殺死亡率の推移

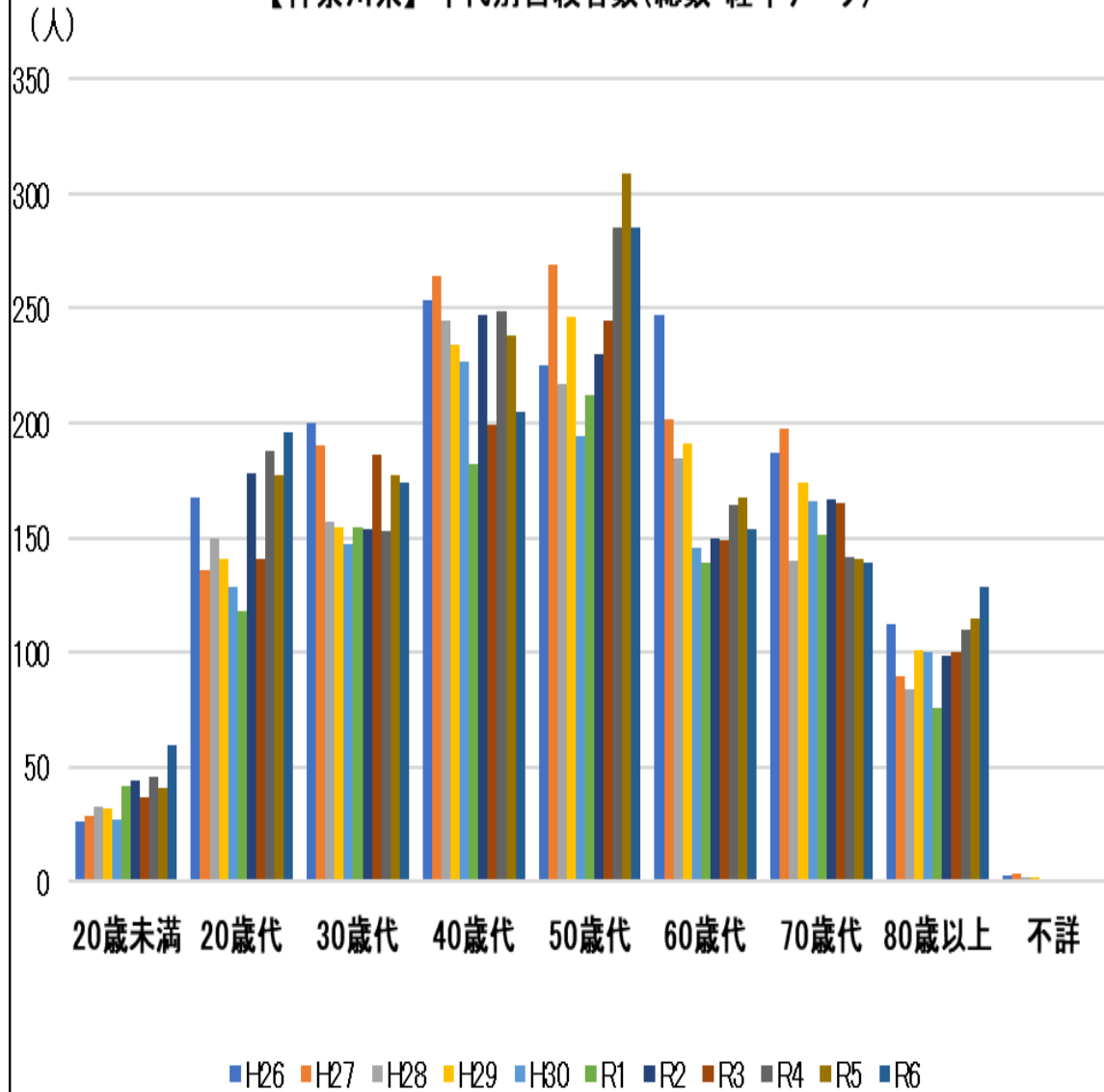


年代別

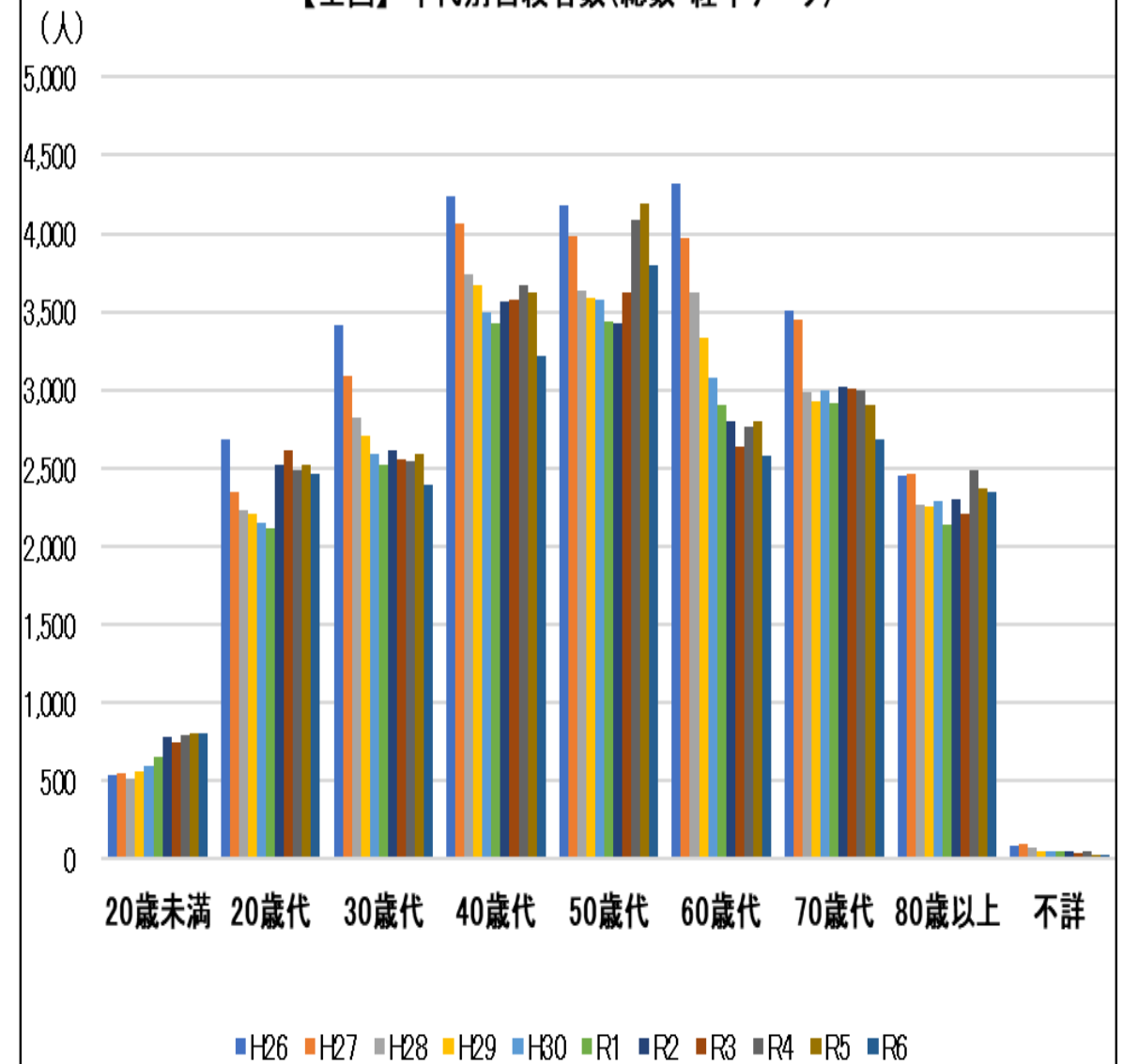
【神奈川県・全国】年代別自殺者の割合(令和6年)



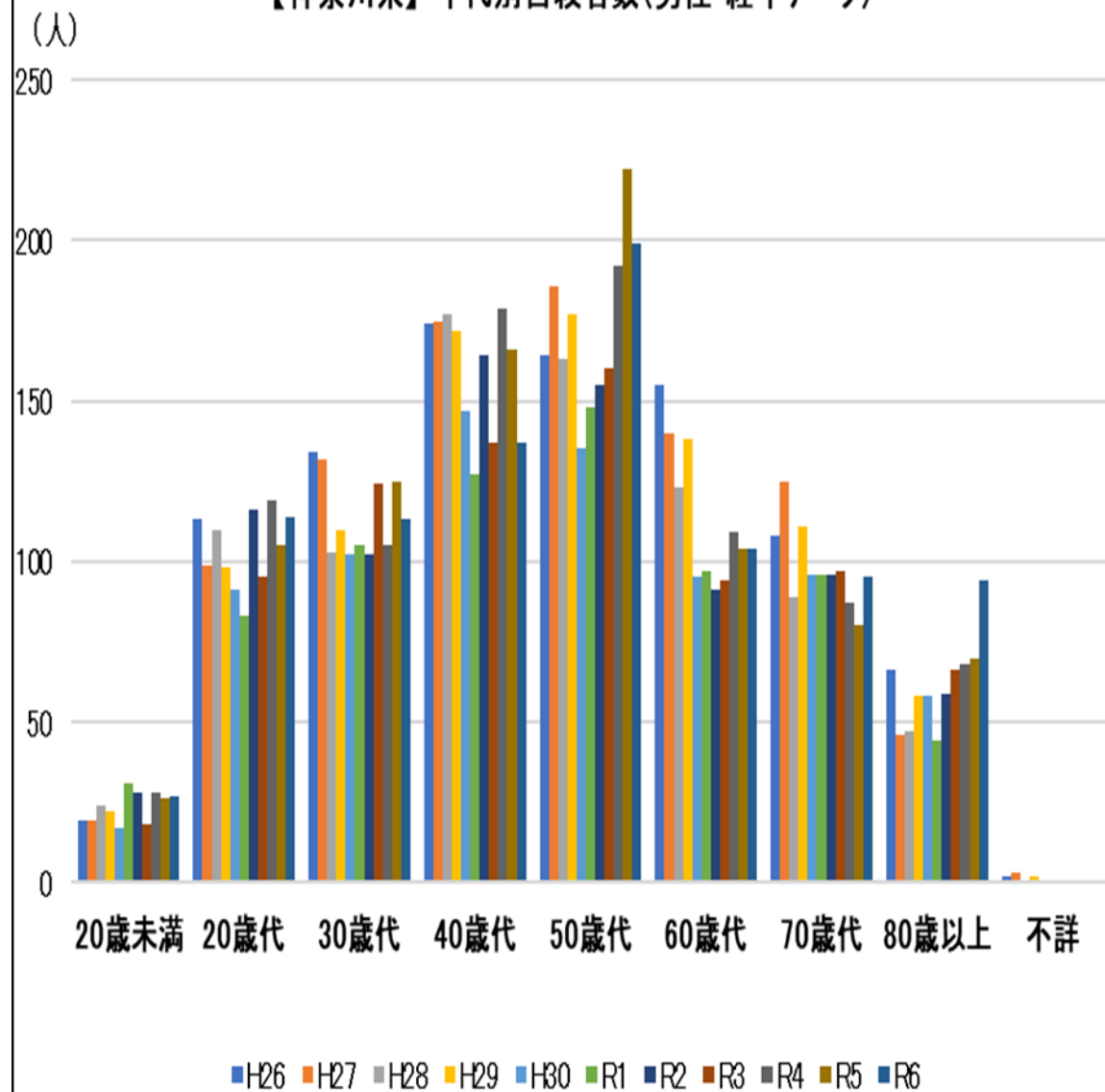
【神奈川県】年代別自殺者数(総数・経年データ)



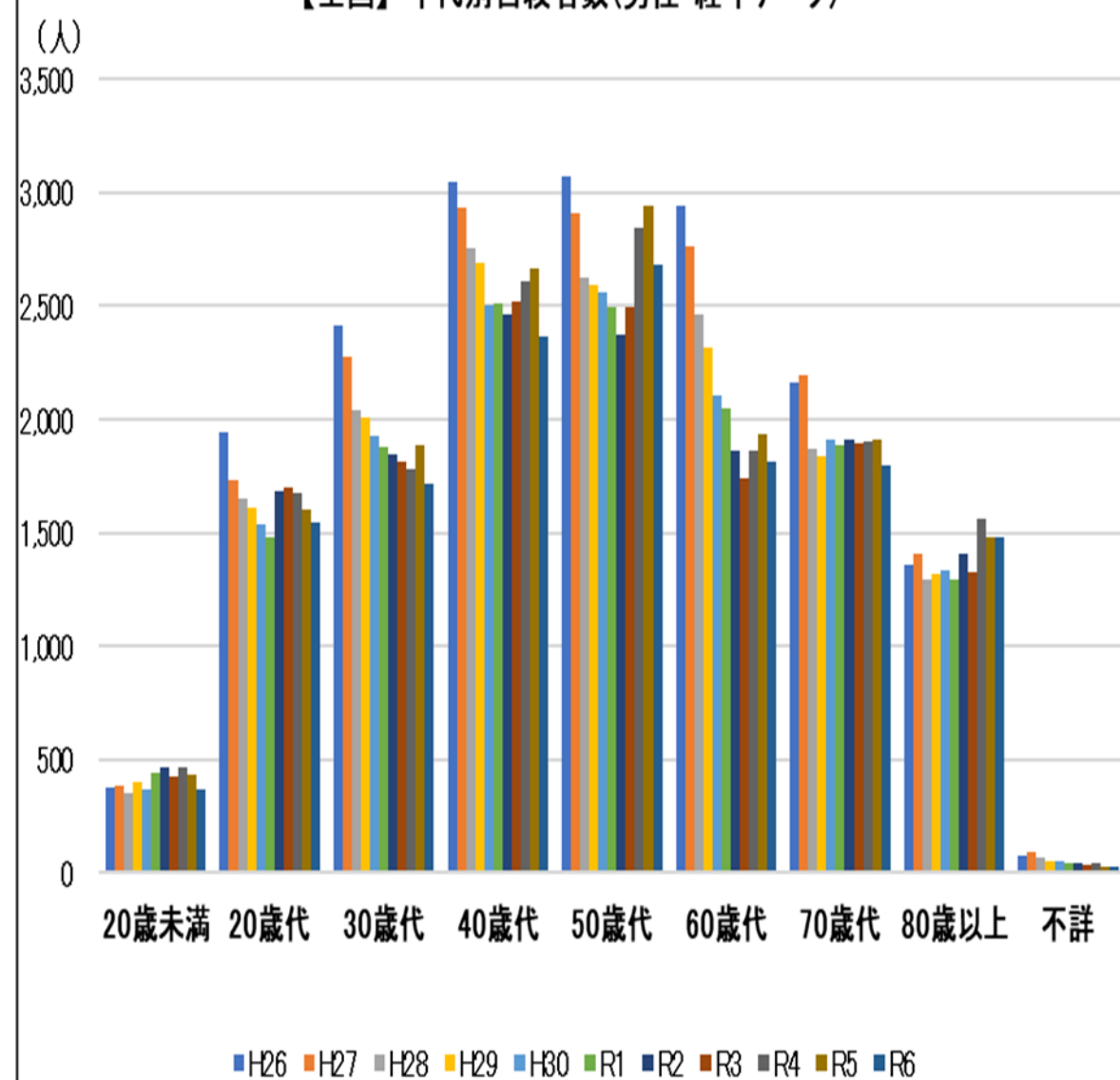
【全国】年代別自殺者数(総数・経年データ)



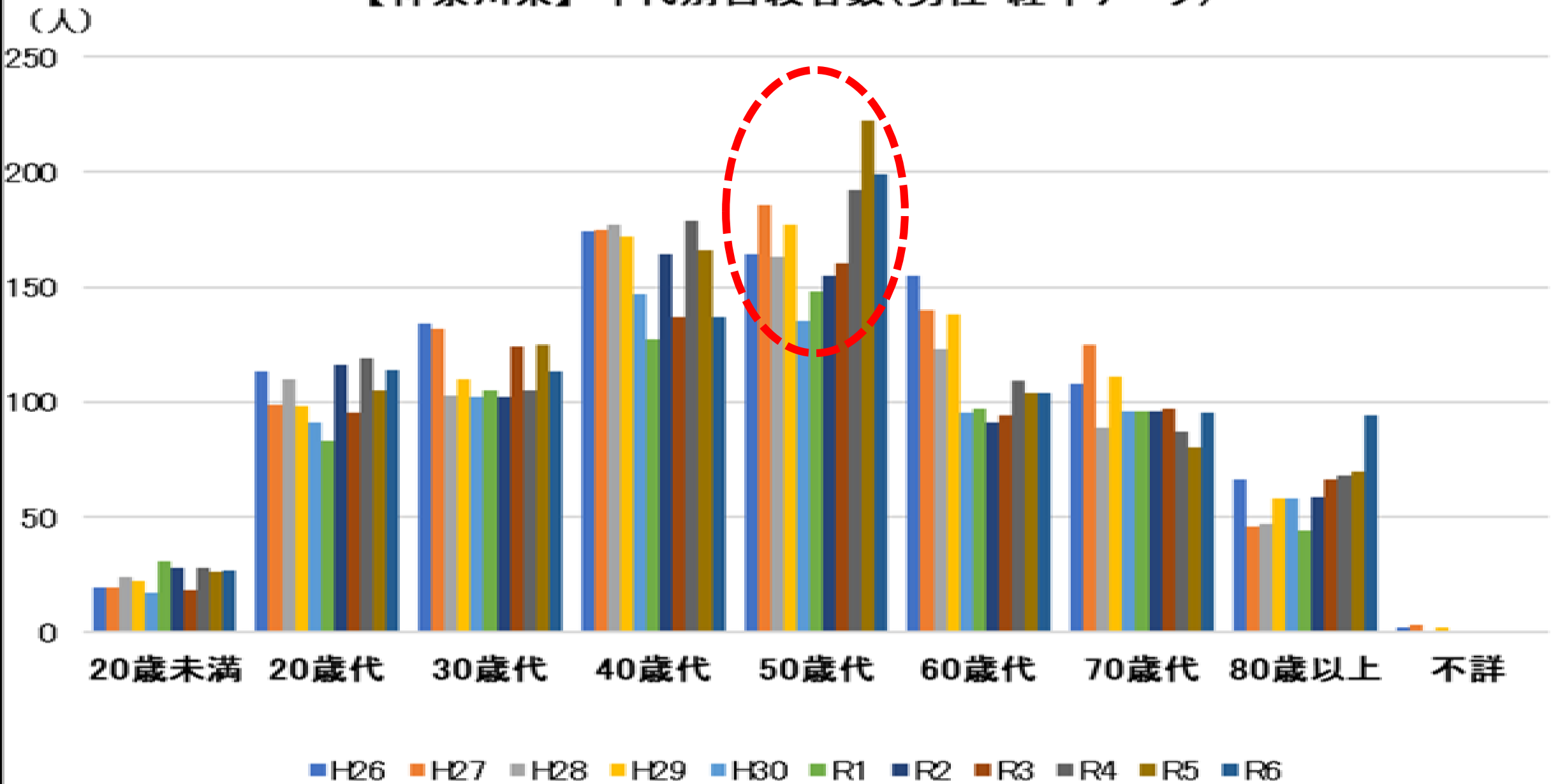
【神奈川県】年代別自殺者数(男性・経年データ)



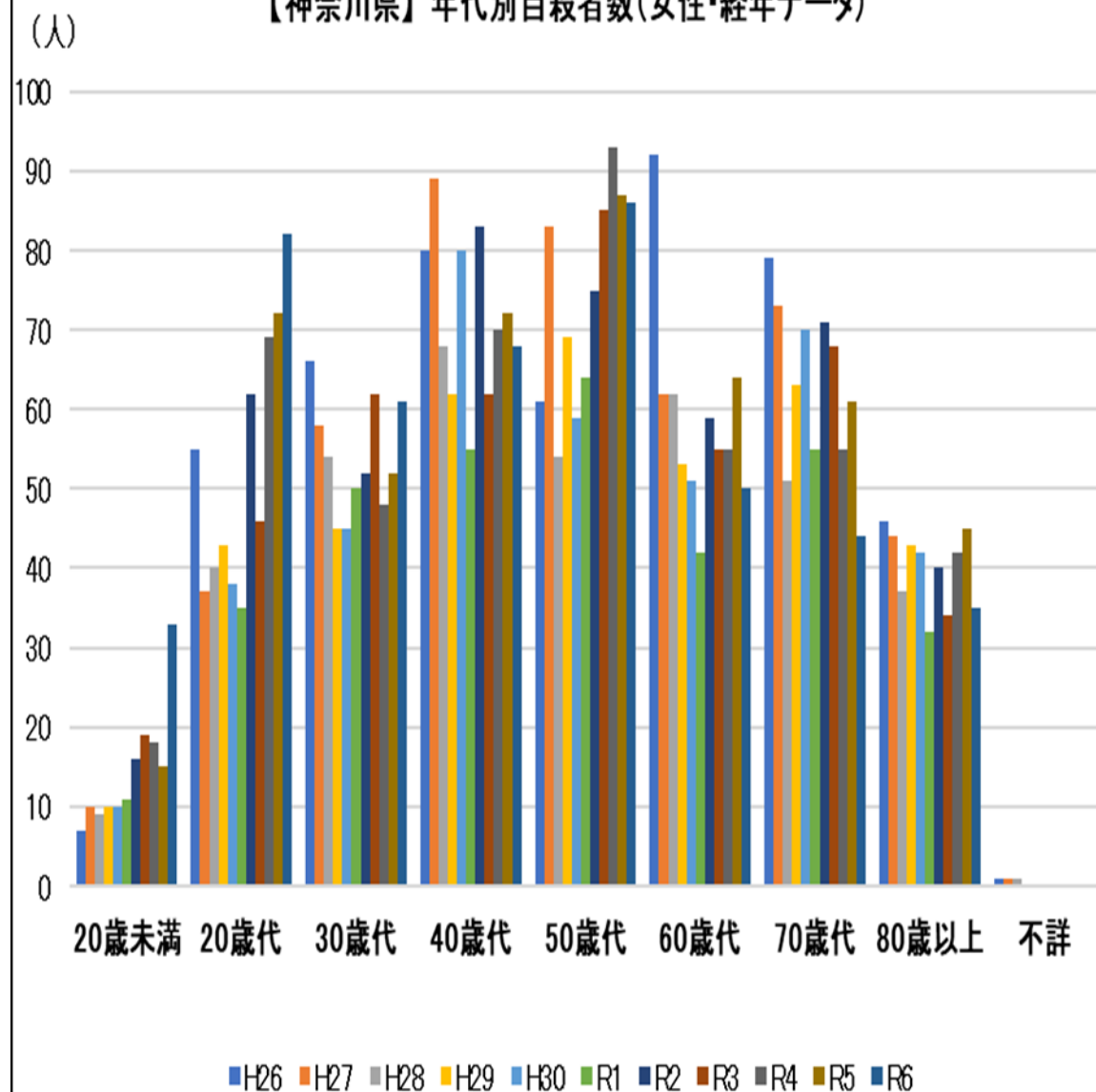
【全国】年代別自殺者数(男性・経年データ)



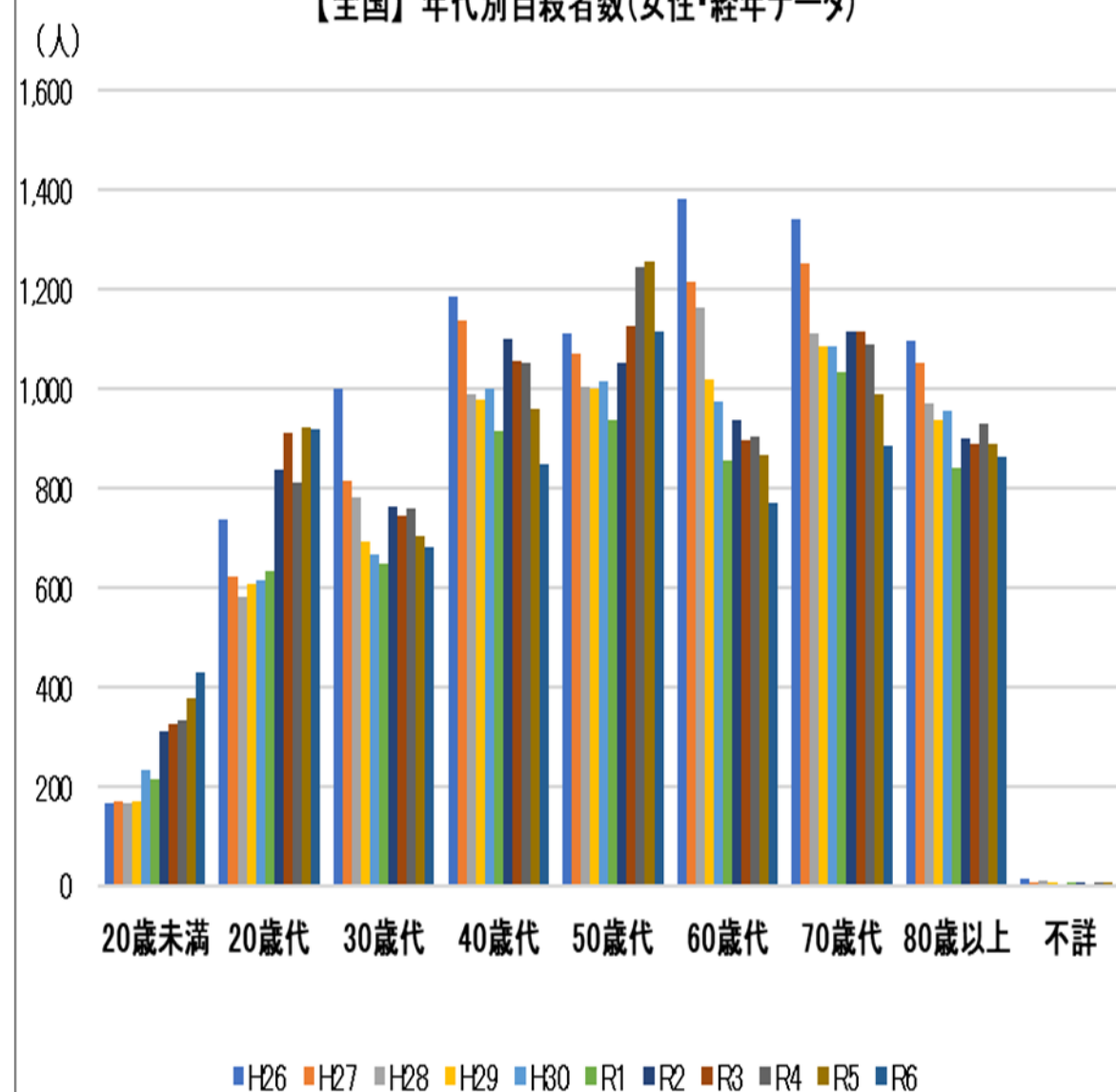
【神奈川県】年代別自殺者数(男性・経年データ)



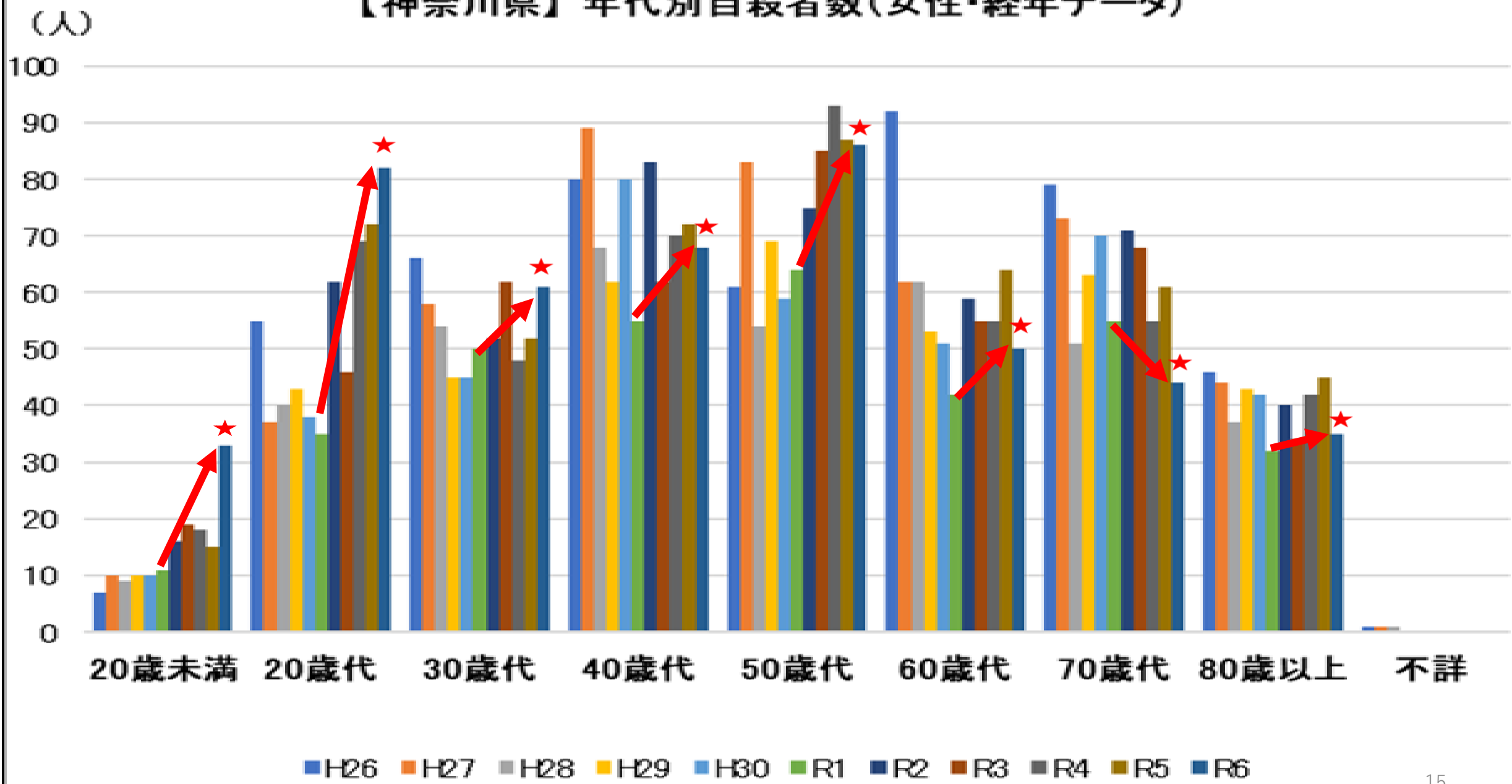
【神奈川県】年代別自殺者数(女性・経年データ)



【全国】年代別自殺者数(女性・経年データ)

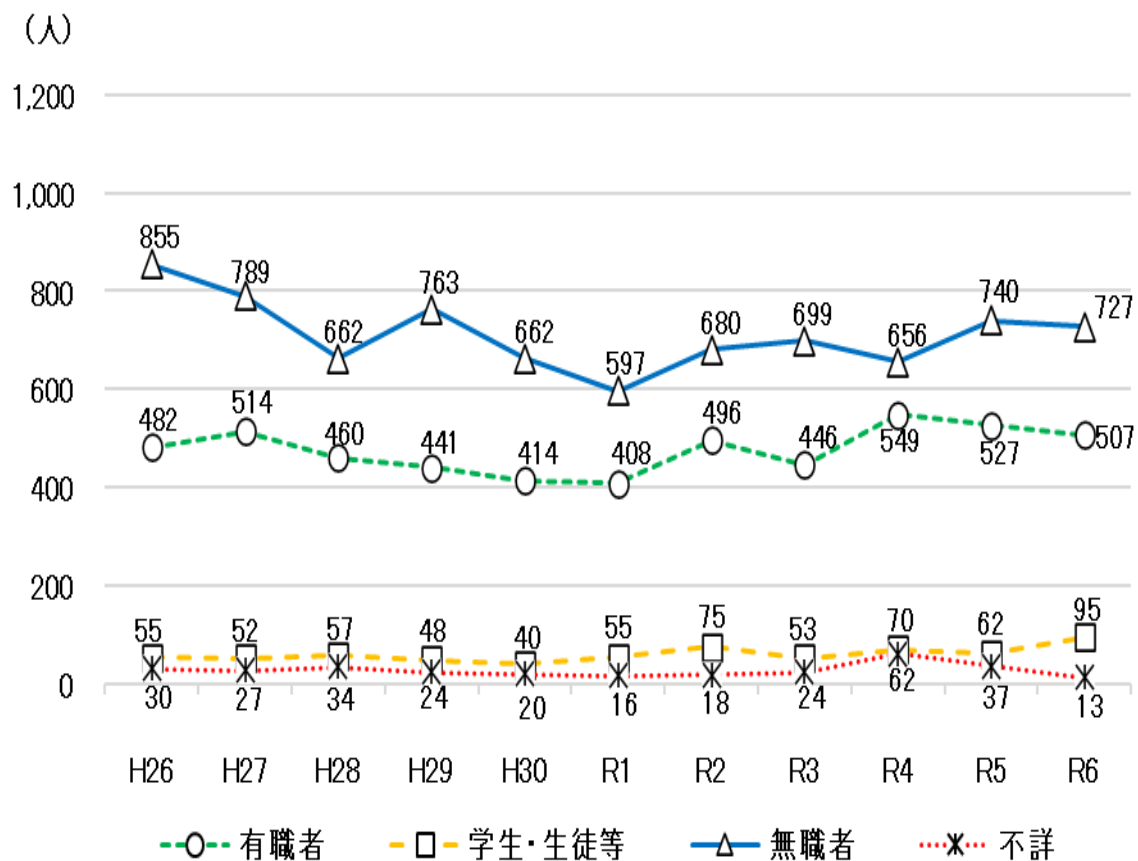


【神奈川県】年代別自殺者数(女性・経年データ)

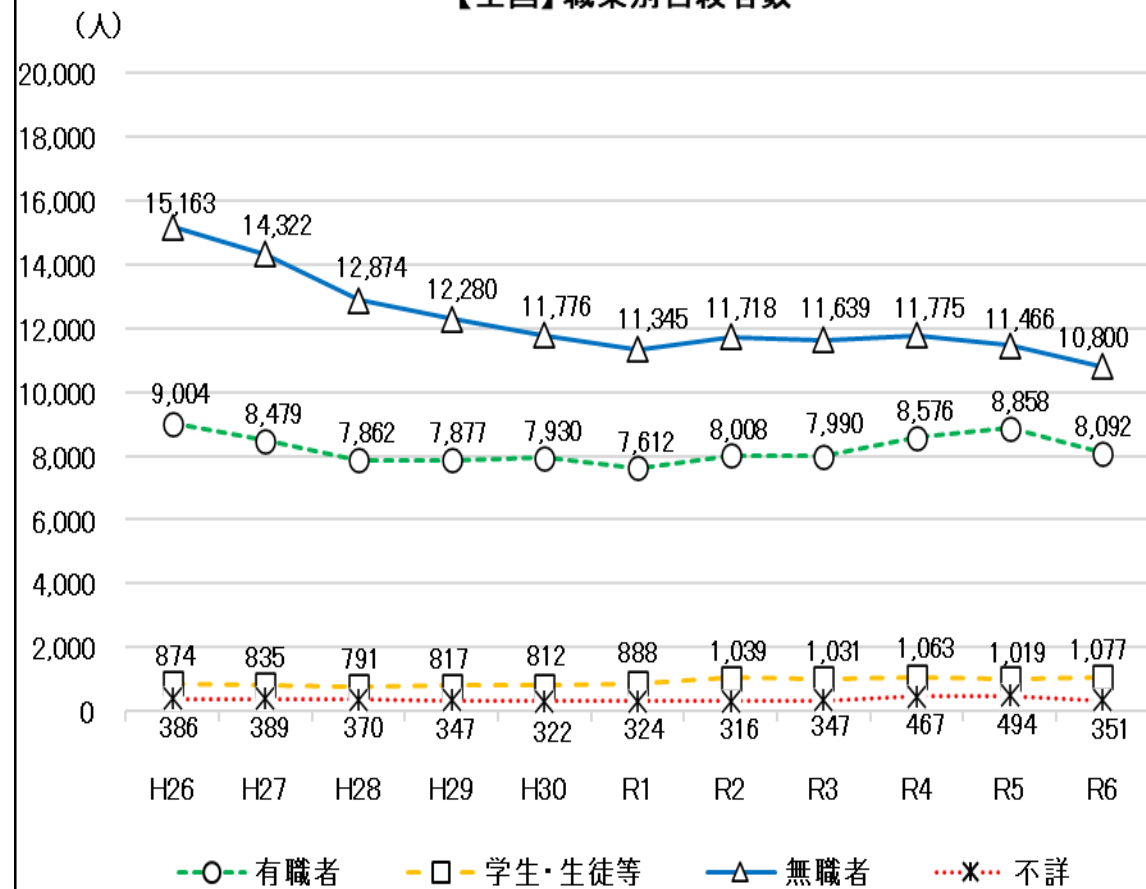


職業別

【神奈川県】職業別自殺者数

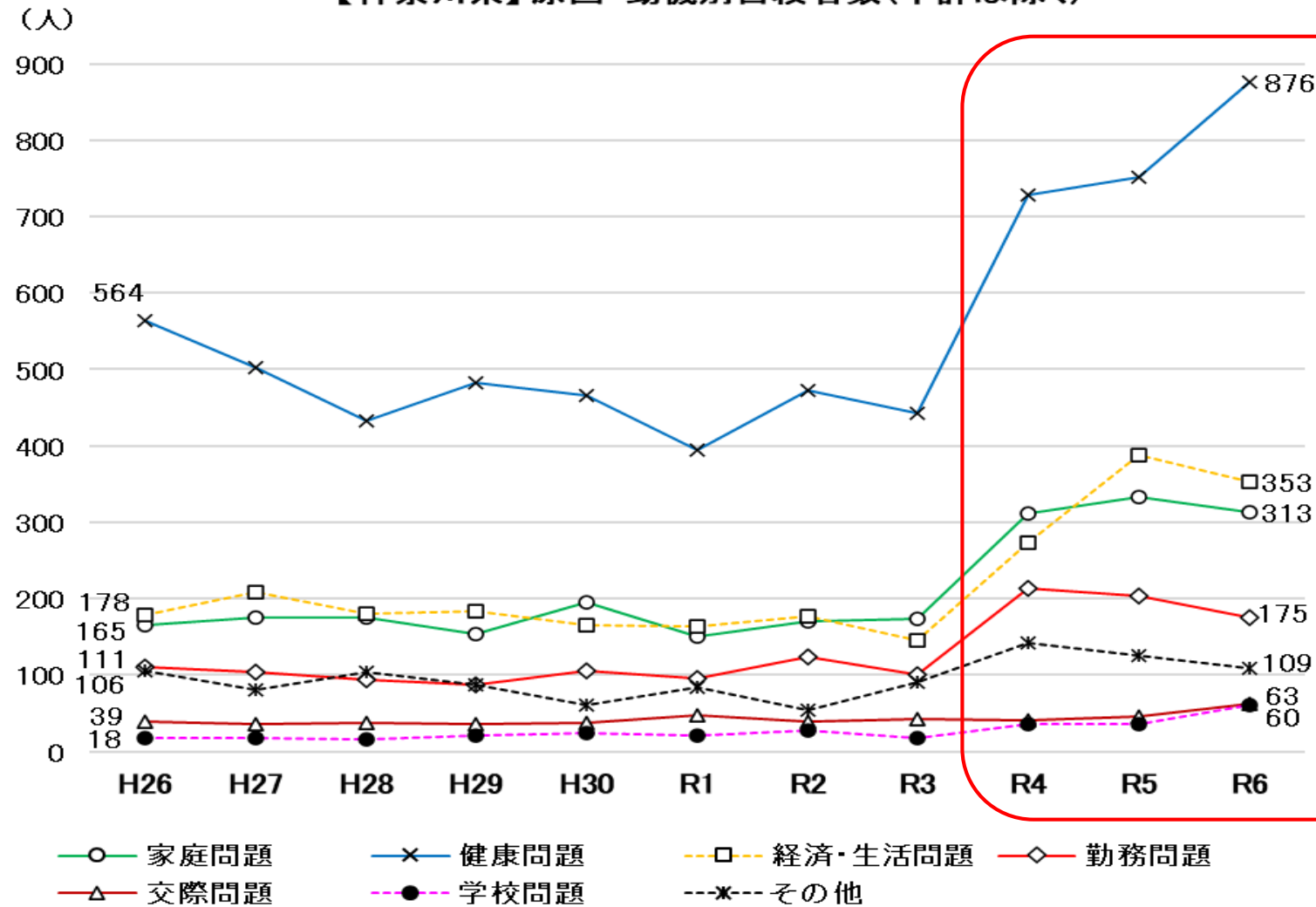


【全国】職業別自殺者数



原因・動機別（神奈川県、令和6年）

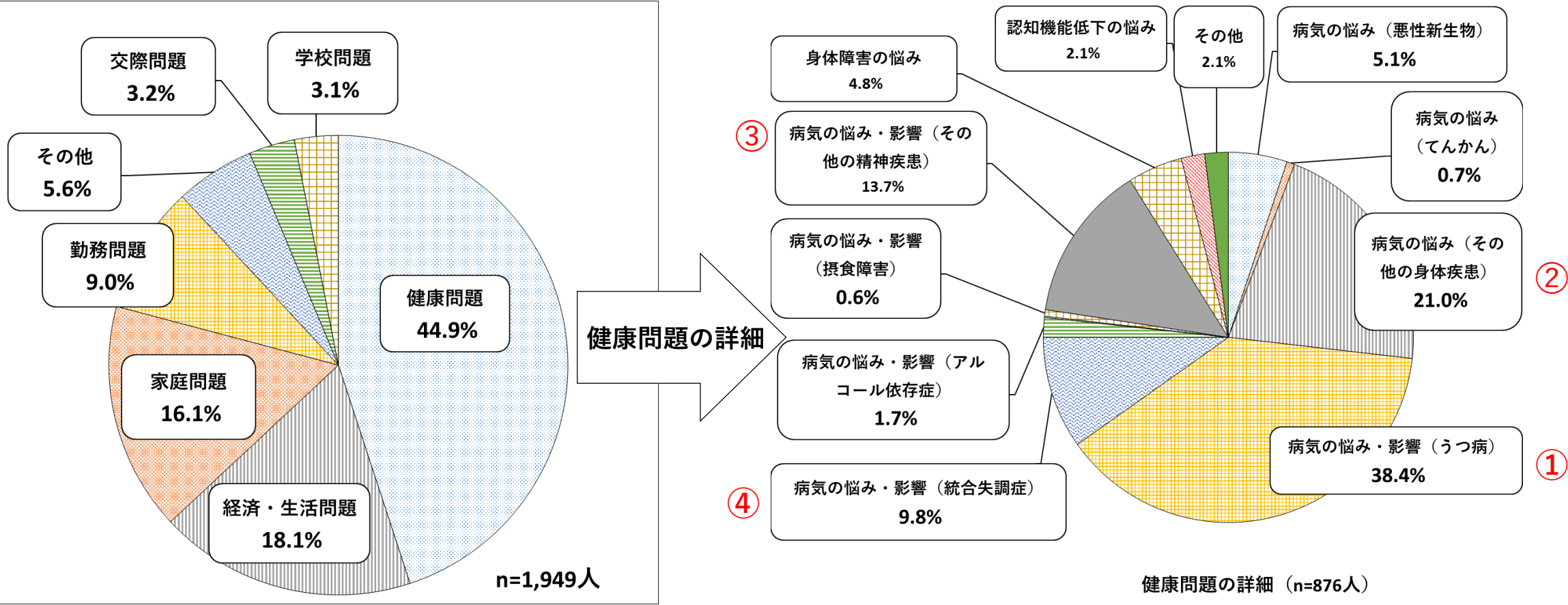
【神奈川県】原因・動機別自殺者数(不詳は除く)



※原因・動機は令和3年までは3つ以内、令和4年からは4つ以内の複数計上が可能であり、合計は自殺者数(実数)とは一致しない。

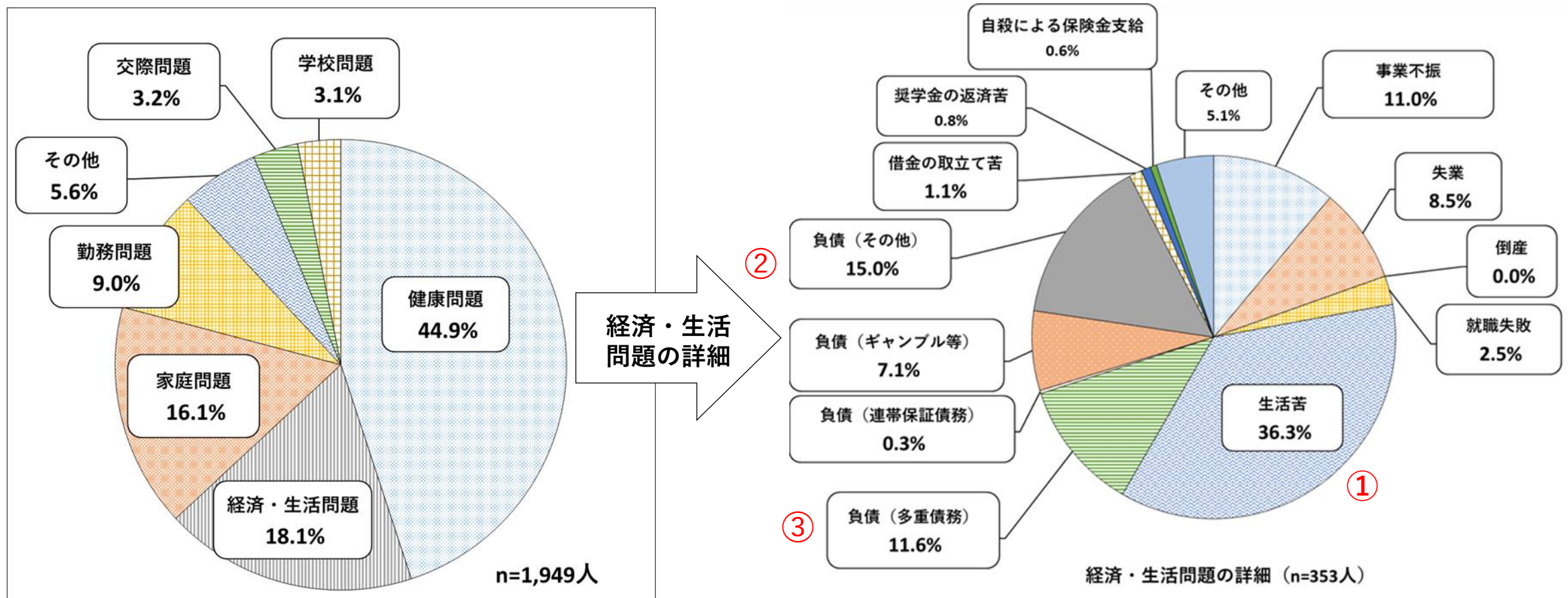
※上記理由により、令和3年以前と令和4年以降は、単純比較することは出来ない。

令和 6 年 神奈川県原因・動機別割合及び健康問題の内訳



※不詳は除く。
※原因・動機は令和 6 年は 4 つ以内の複数計上が可能となっている。
※令和 6 年の自殺者数 (1,342人) と原因・動機別の総和 (1,949人) とは一致しない。
※各グラフの構成割合の母数は、自殺者実数ではなく複数回答の和 (n) としている。

令和6年 神奈川県原因・動機別割合及び経済・生活問題の内訳



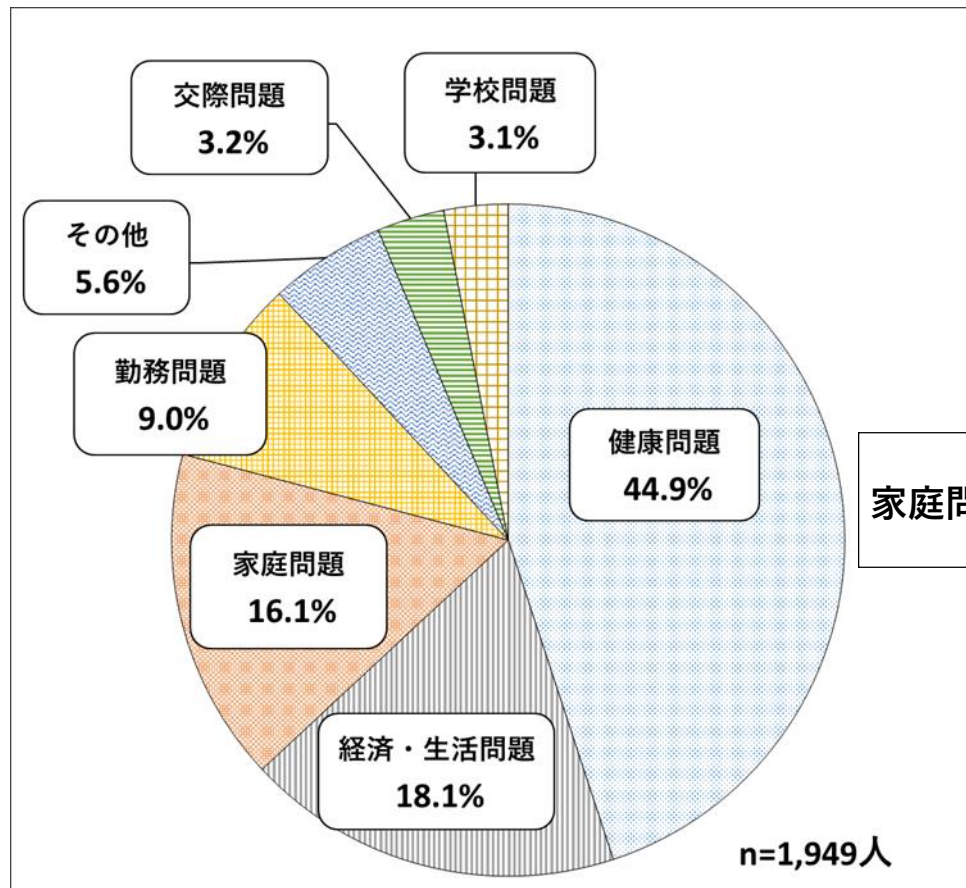
※不詳は除く。

※原因・動機は令和6年は4つ以内の複数計上が可能となっている。

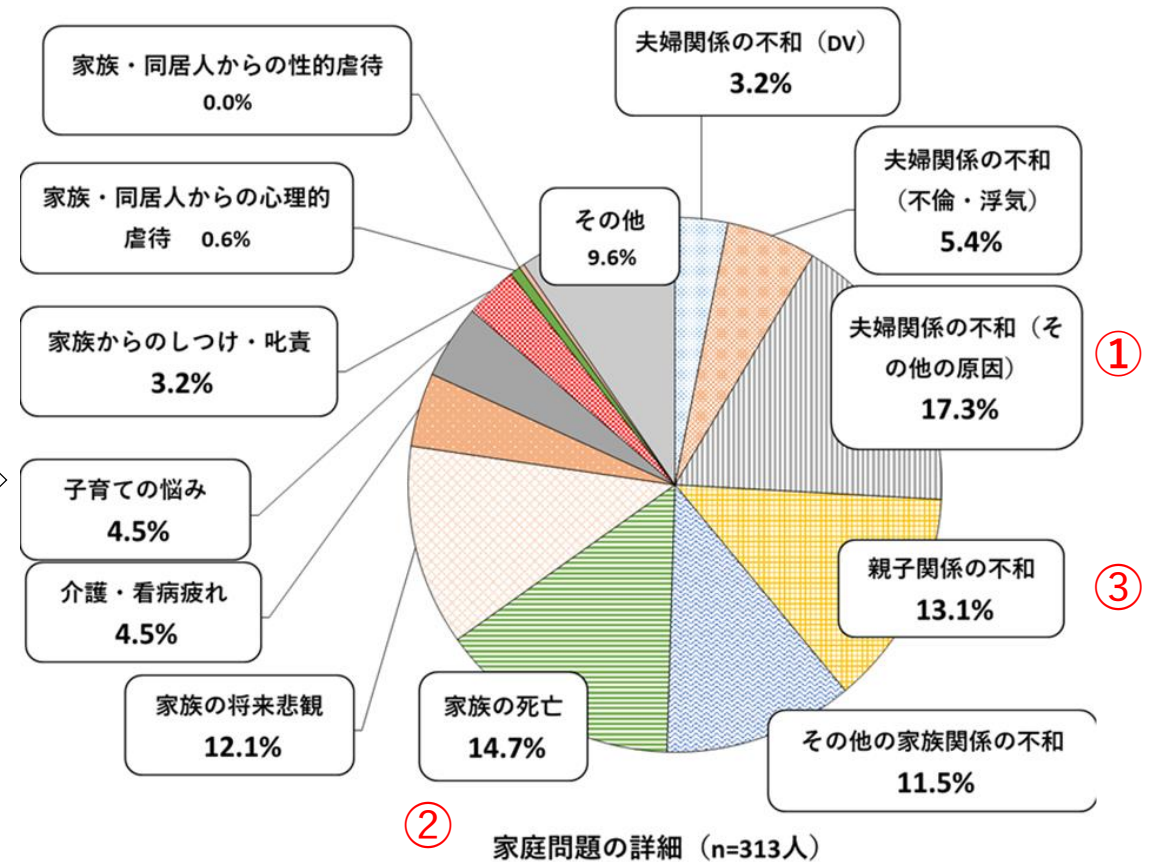
※令和6年の自殺者数（1,342人）と原因・動機別の総和（1,949人）とは一致しない。

※各グラフの構成割合の母数は、自殺者実数ではなく複数回答の和（n）としている。

令和6年 神奈川県原因・動機別割合及び家庭問題の内訳



家庭問題の詳細



※不詳は除く。

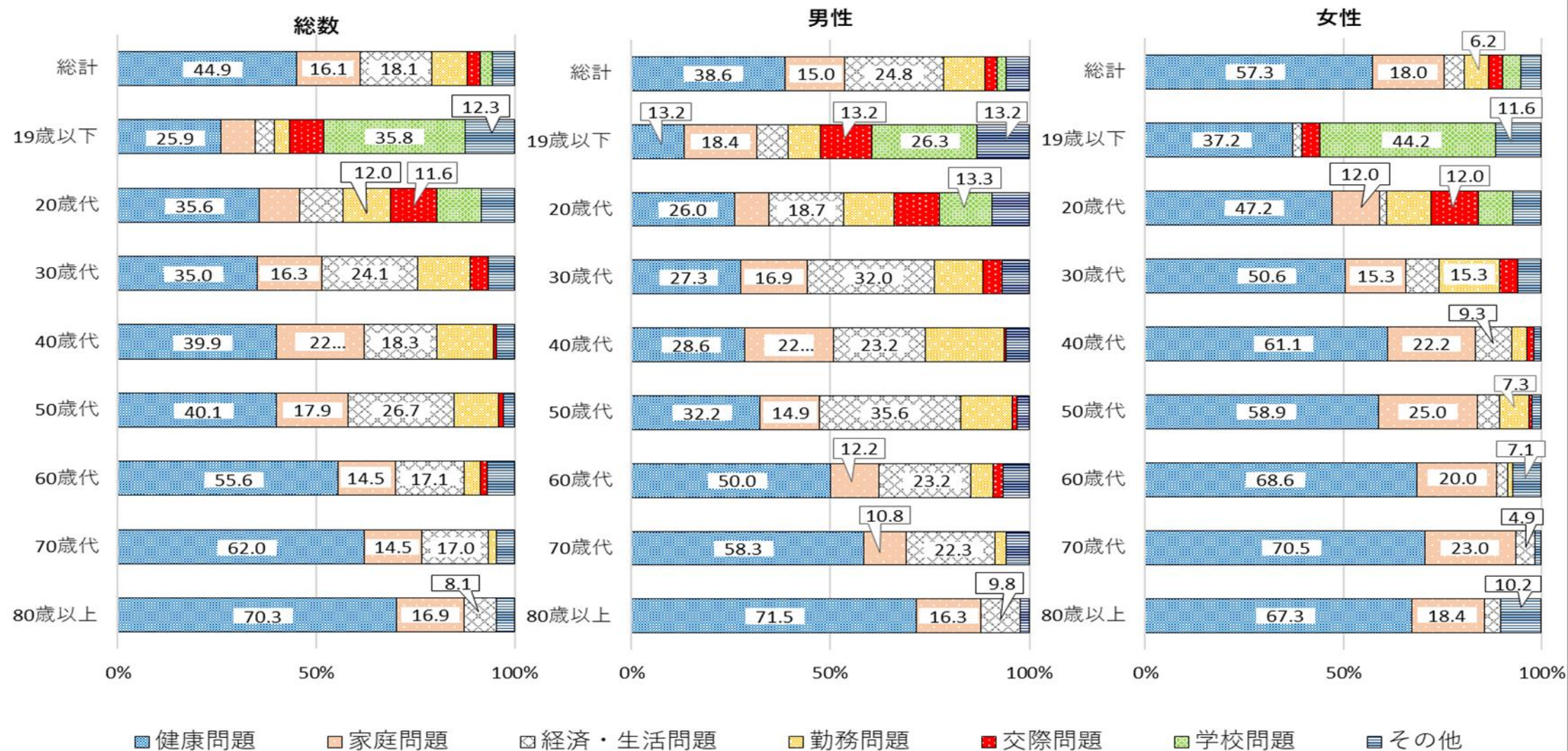
※原因・動機は令和6年は4つ以内の複数計上が可能となっている。

※令和6年の自殺者数(1,342人)と原因・動機別の総和(1,949人)とは一致しない。

※各グラフの構成割合の母数は、自殺者実数ではなく複数回答の和(n)としている。

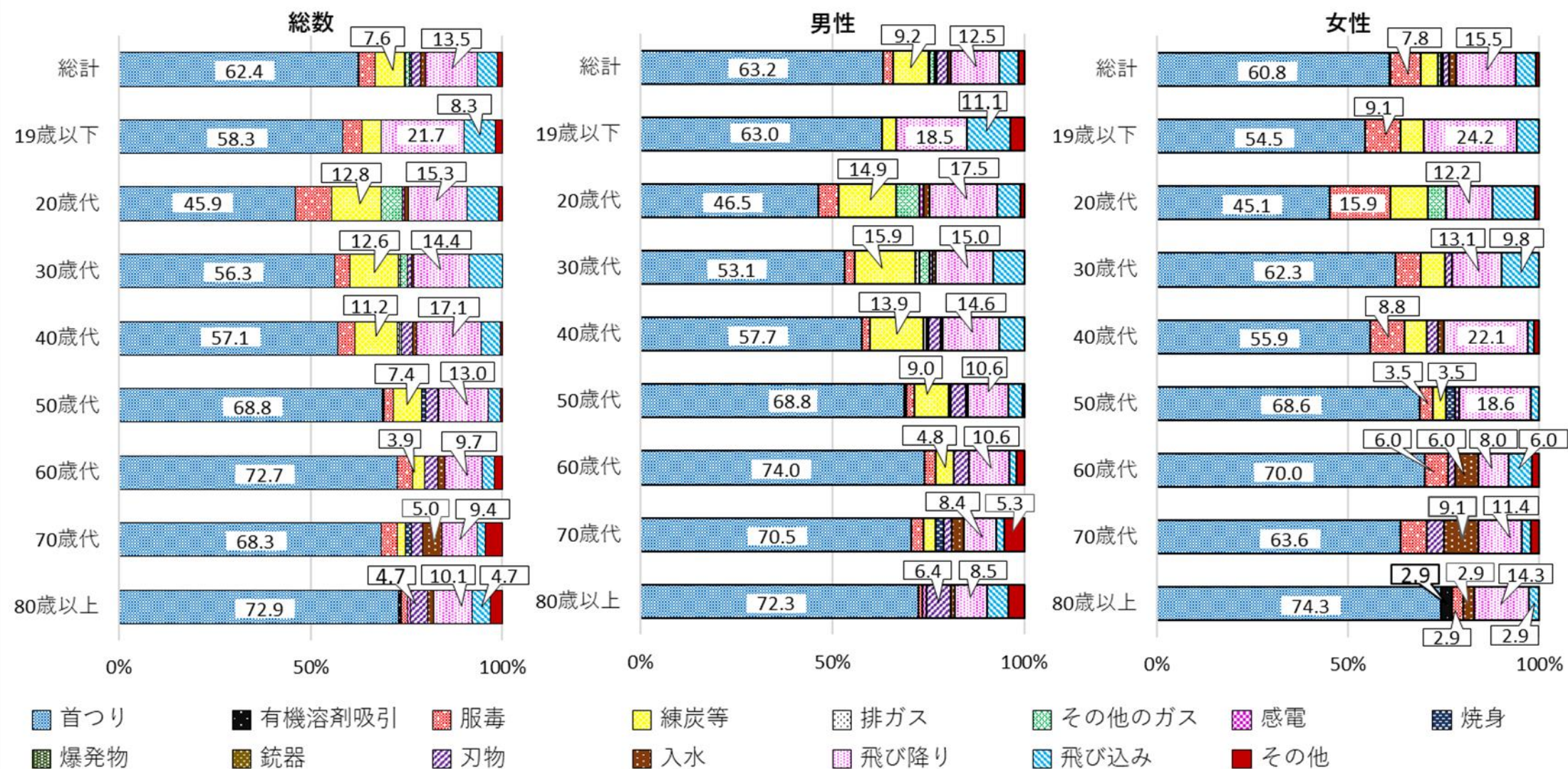
令和6年における男女別・年齢階級別（10歳階級）・自殺の原因・動機別の自殺者の構成割合

（数値は上位3項目を表示）



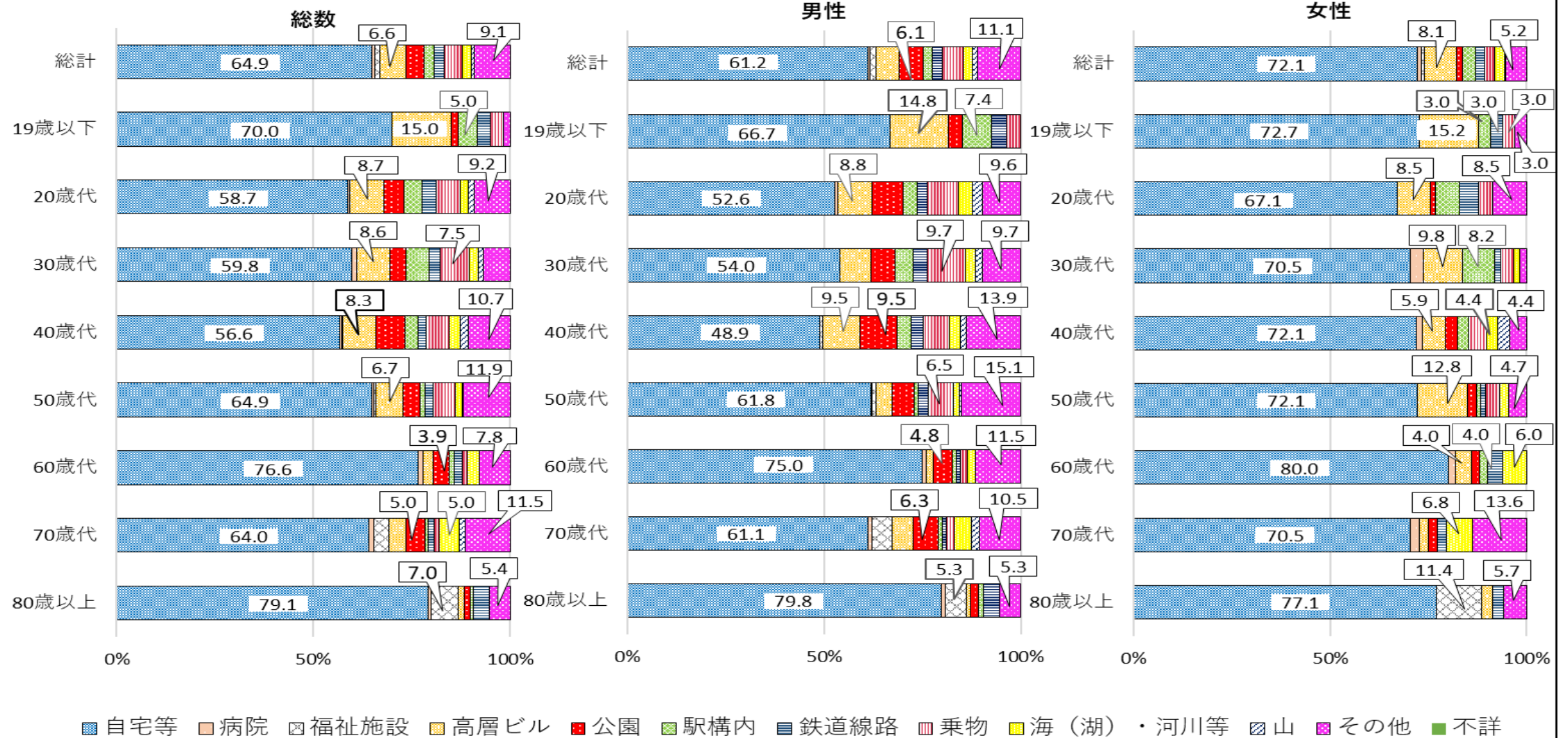
手段・場所（神奈川県、令和6年）

令和6年における男女別・年齢階級別（10歳階級）・自殺の手段別の自殺者の構成割合（数値は上位3項目を表示）

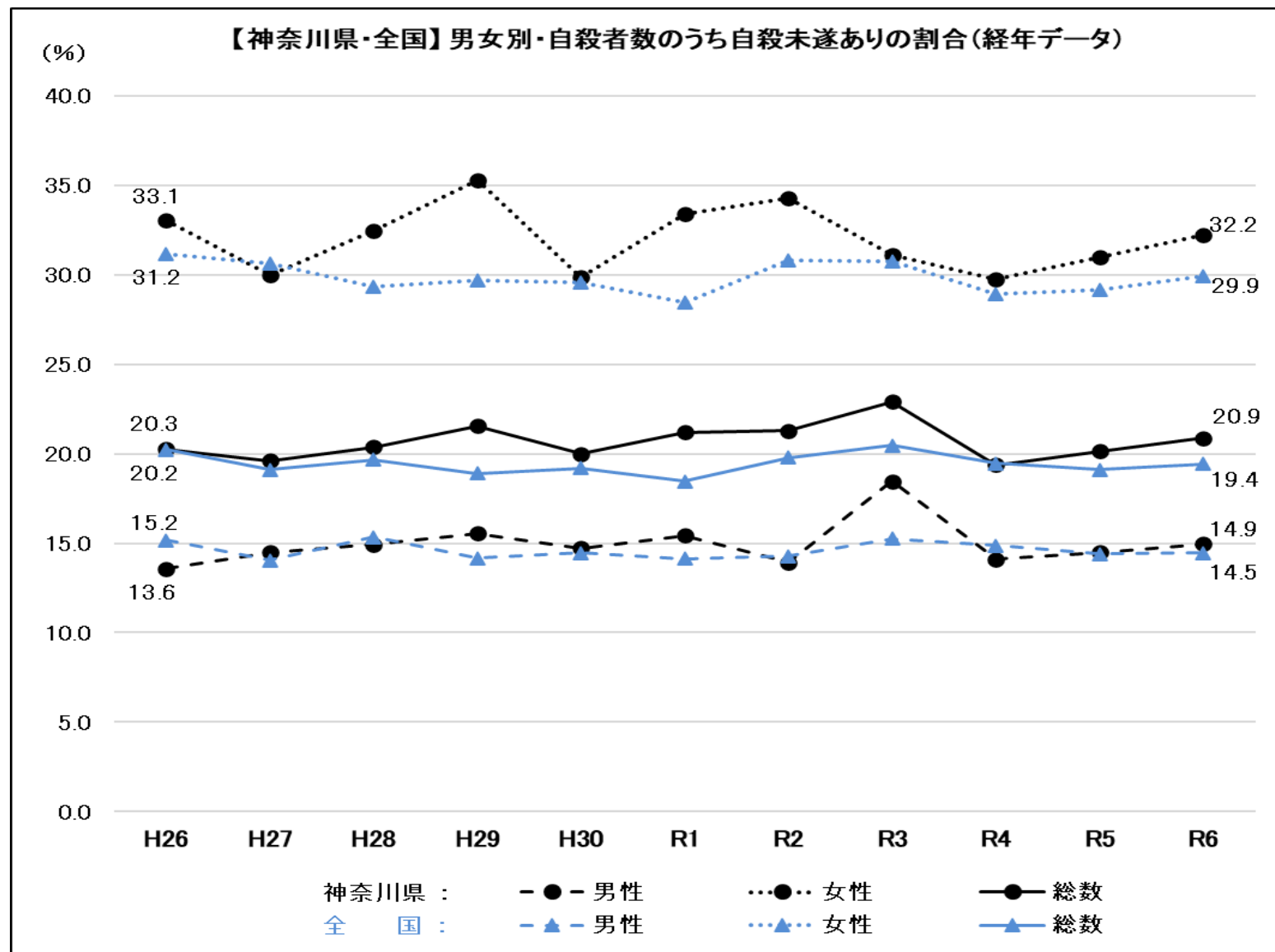


令和6年における男女別・年齢階級別（10歳階級）・自殺の場所別の自殺者の構成割合

（数値は上位3項目を表示）



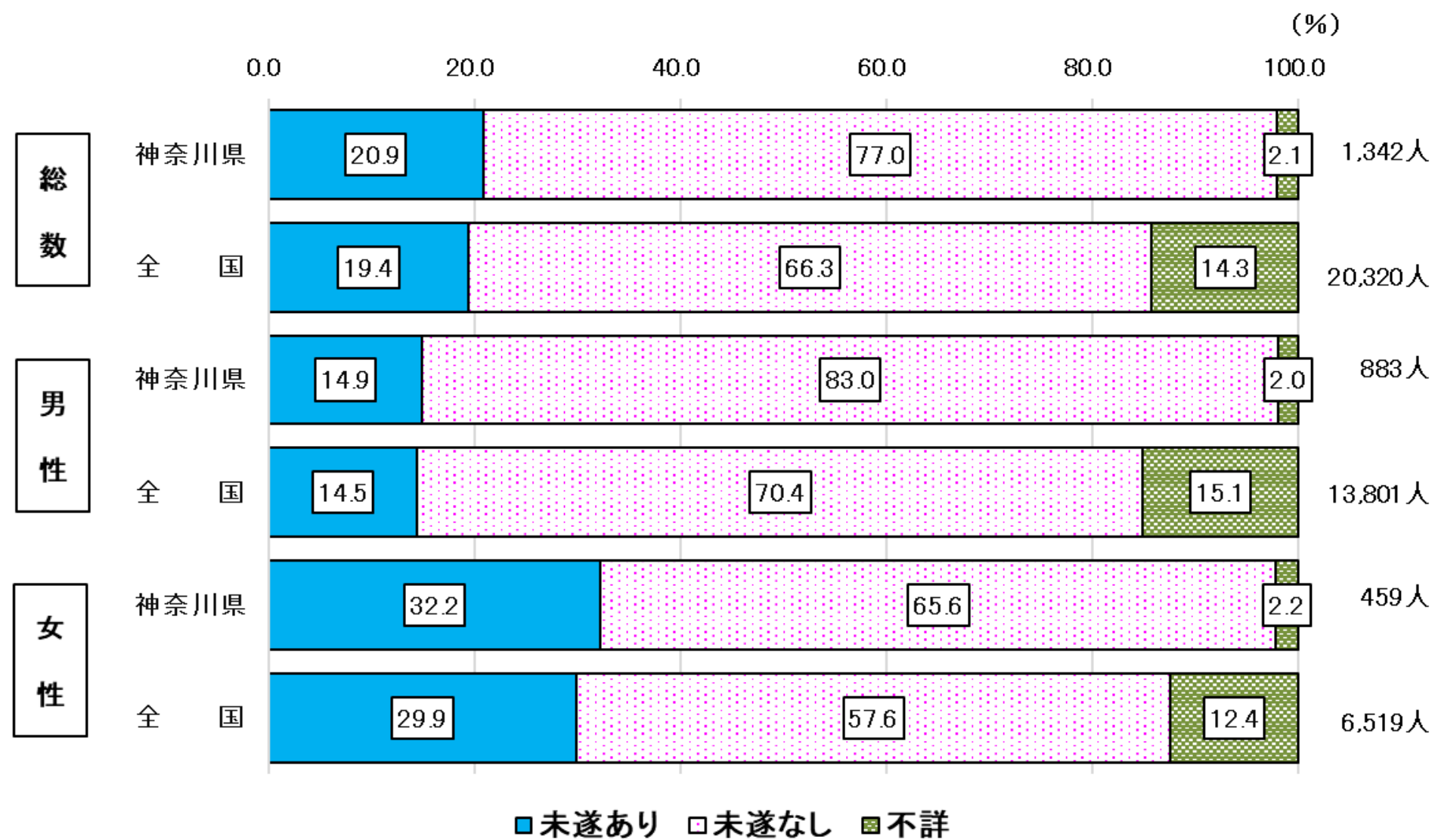
自殺未遂歴の有無



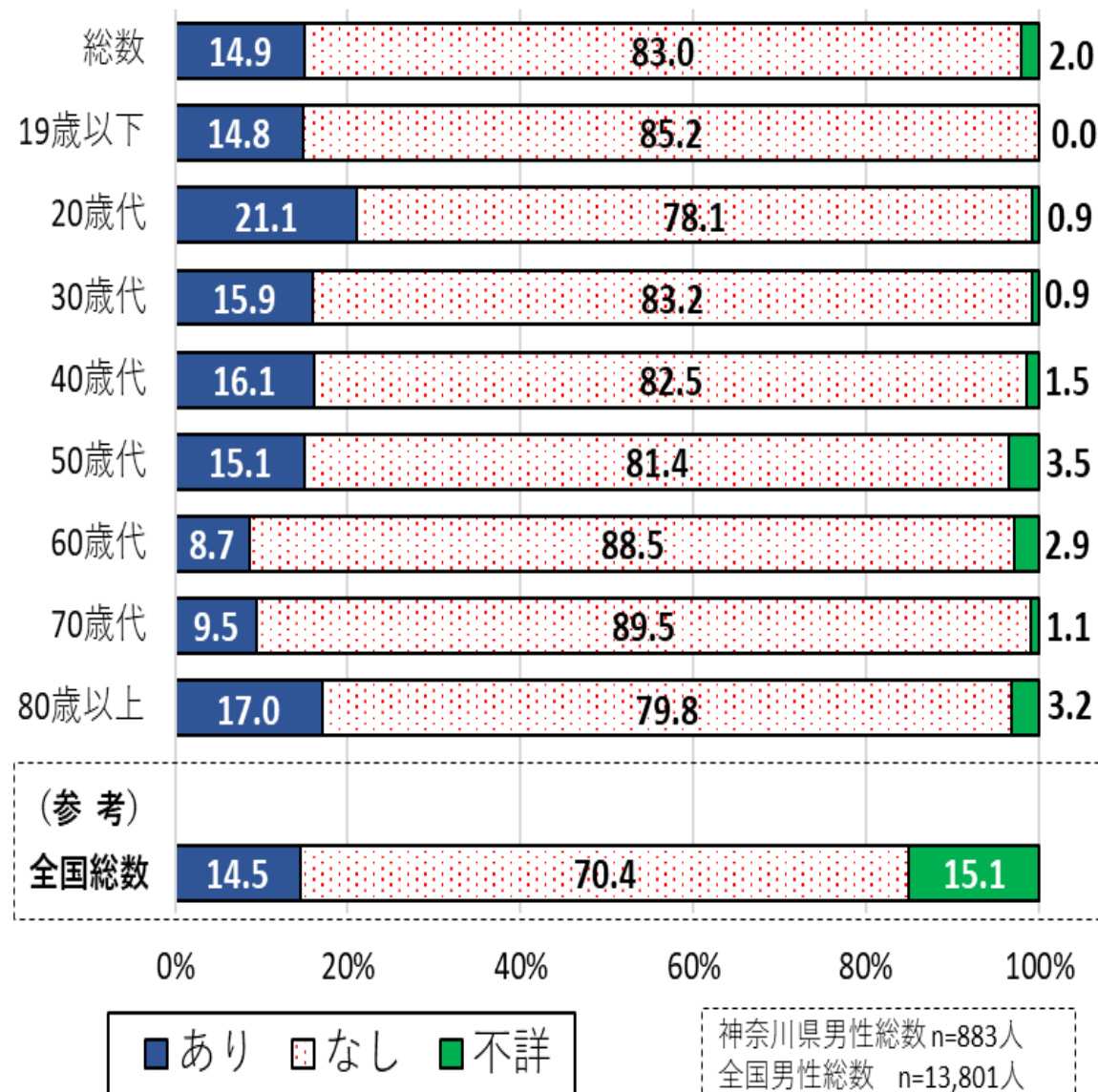
総数(人)n:年[神奈川県/全国]

H26 [1,422/25,427]	H27 [1,382/24,025]	H28 [1,213/21,897]	H29 [1,276/21,321]	H30 [1,136/20,840]
R 1 [1,076/20,169]	R 2 [1,269/21,081]	R 3 [1,222/21,007]	R 4 [1,337/21,881]	R 5 [1,366/21,837]
R 6 [1,342/20,320]				

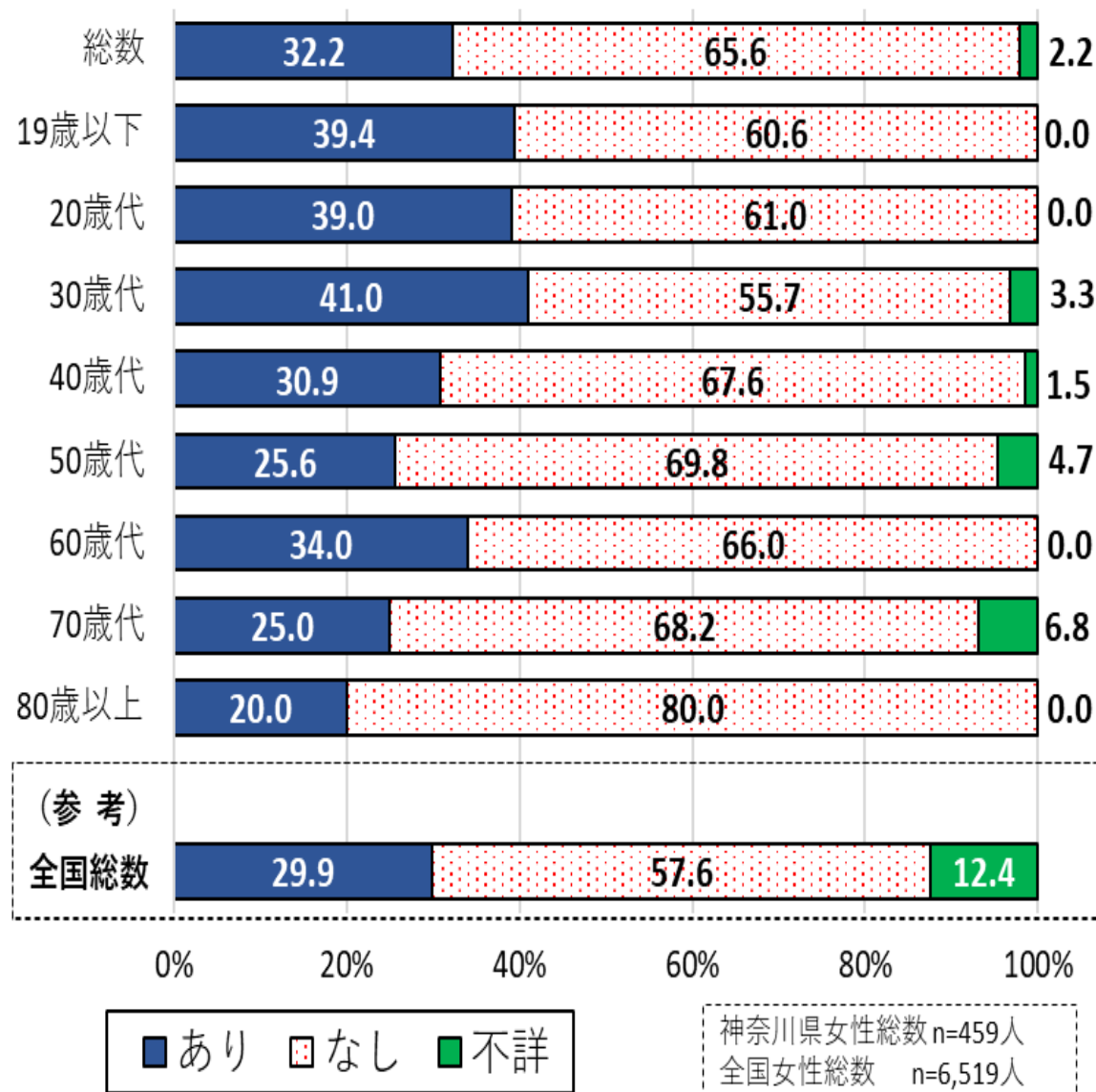
【神奈川県・全国】男女別・自殺未遂の有無の割合(令和6年)



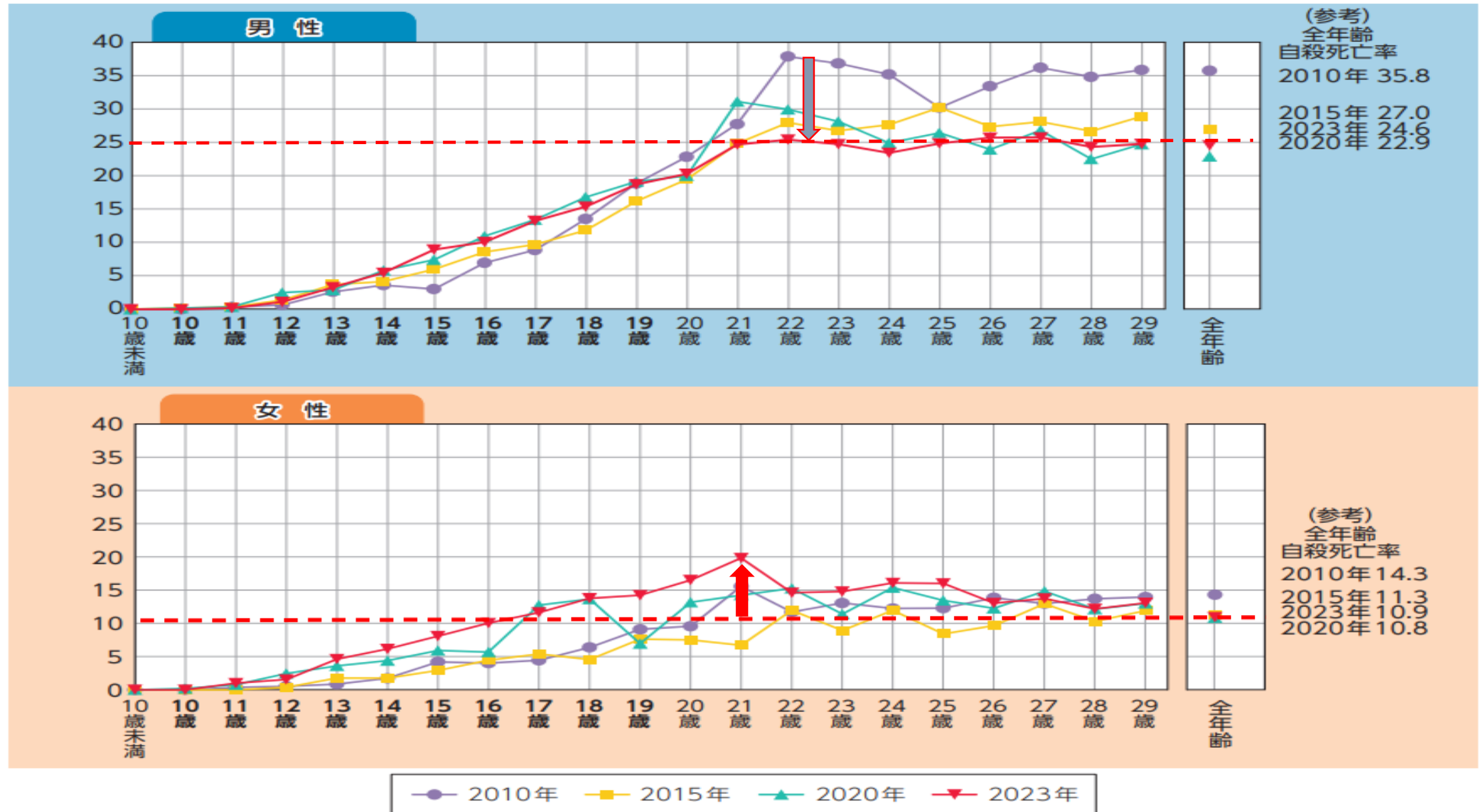
【神奈川県】年齢階級別、自殺未遂歴の有無別自殺者数の割合
(令和6年・男性)



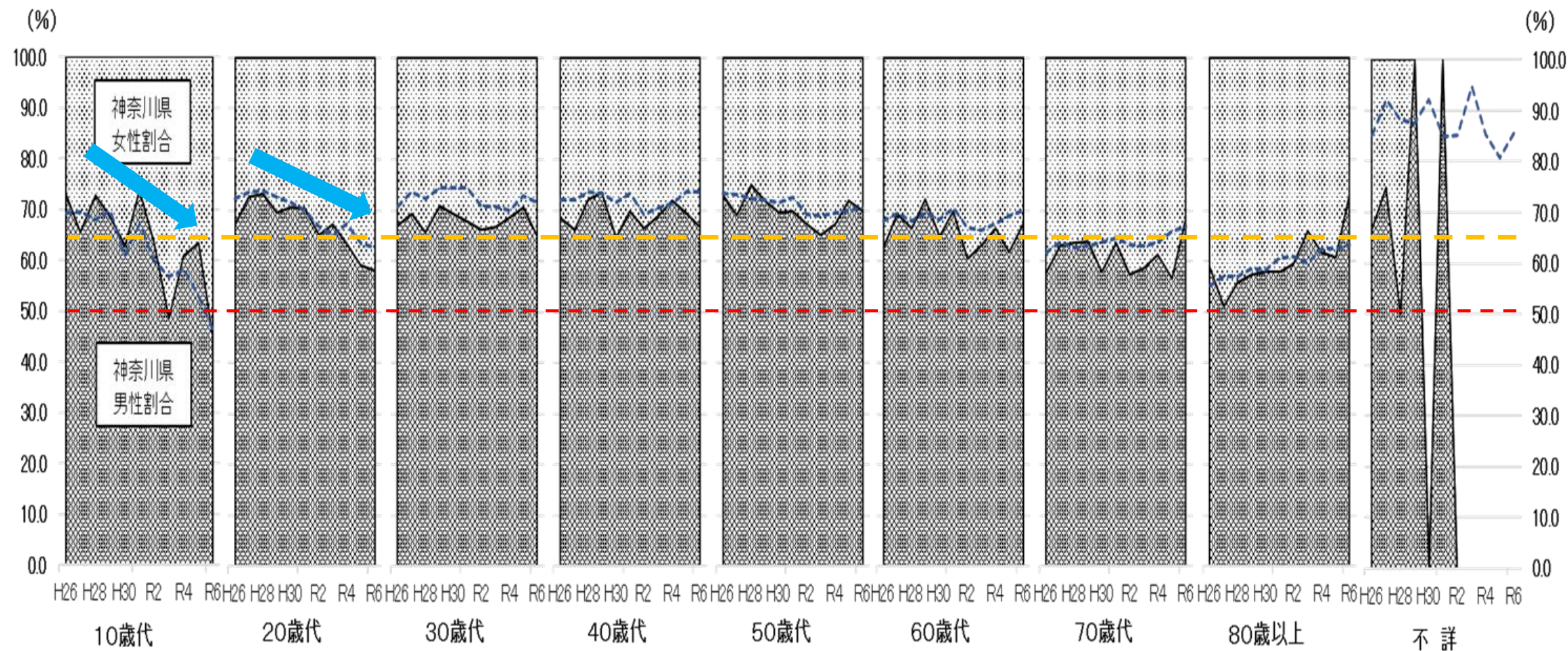
【神奈川県】年齢階級別、自殺未遂歴の有無別自殺者数の割合
(令和6年・女性)



子ども・若者・女性



神奈川県 各歳別男女比（2014, 2016, 2018, 2020, 2022, 2024/H26,H28,H30,R2,R4,R6）

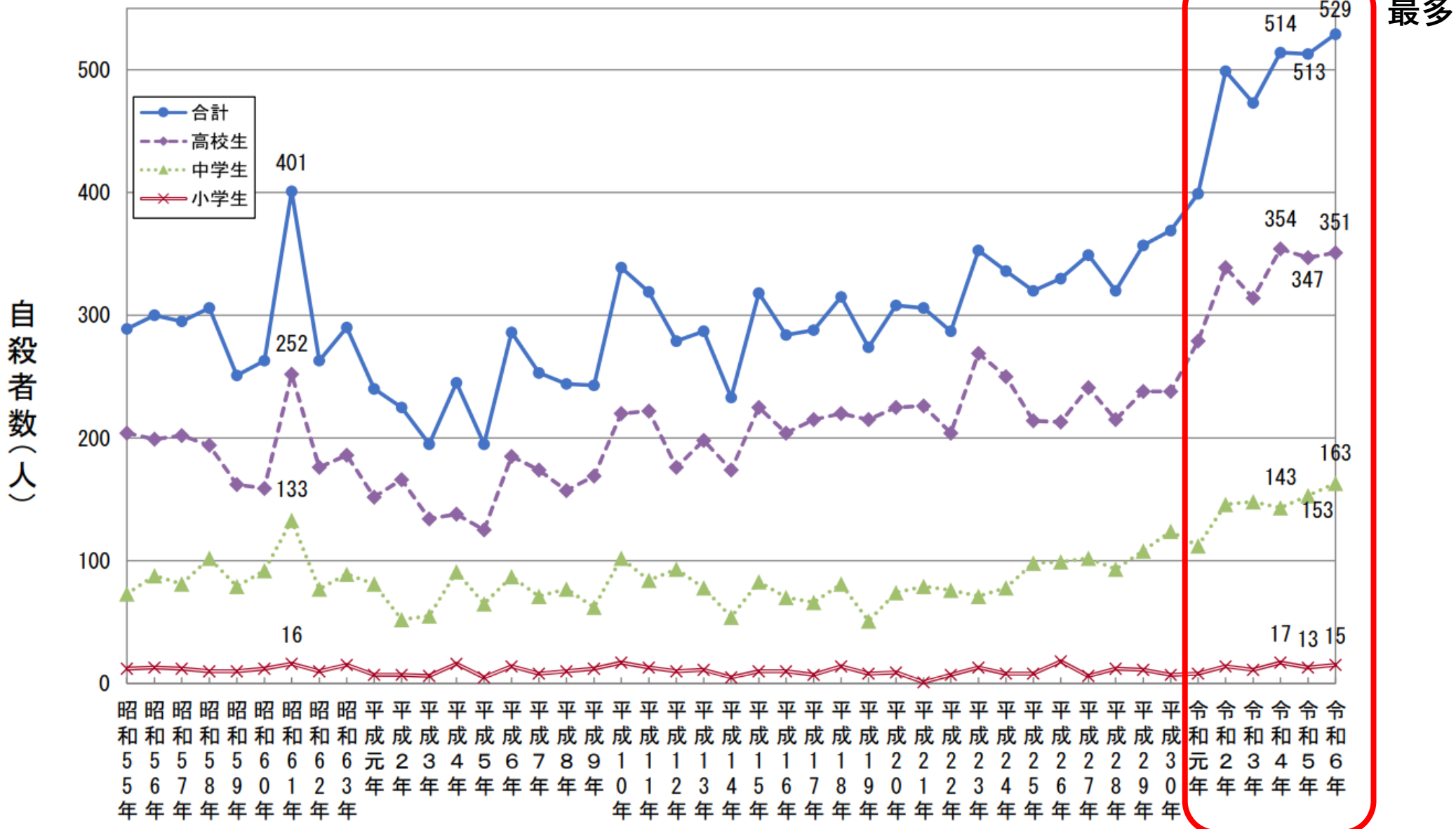


----- 全国男女別割合ライン(ラインより下が男性割合、上が女性割合)

※本グラフは、神奈川県の男女別割合を面積比で表した上に、全国の男女別割合を表すライン(折れ線グラフ)を重ねることで神奈川県と全国の比較を行っている。

全国

小中高生別自殺者数の年次推移

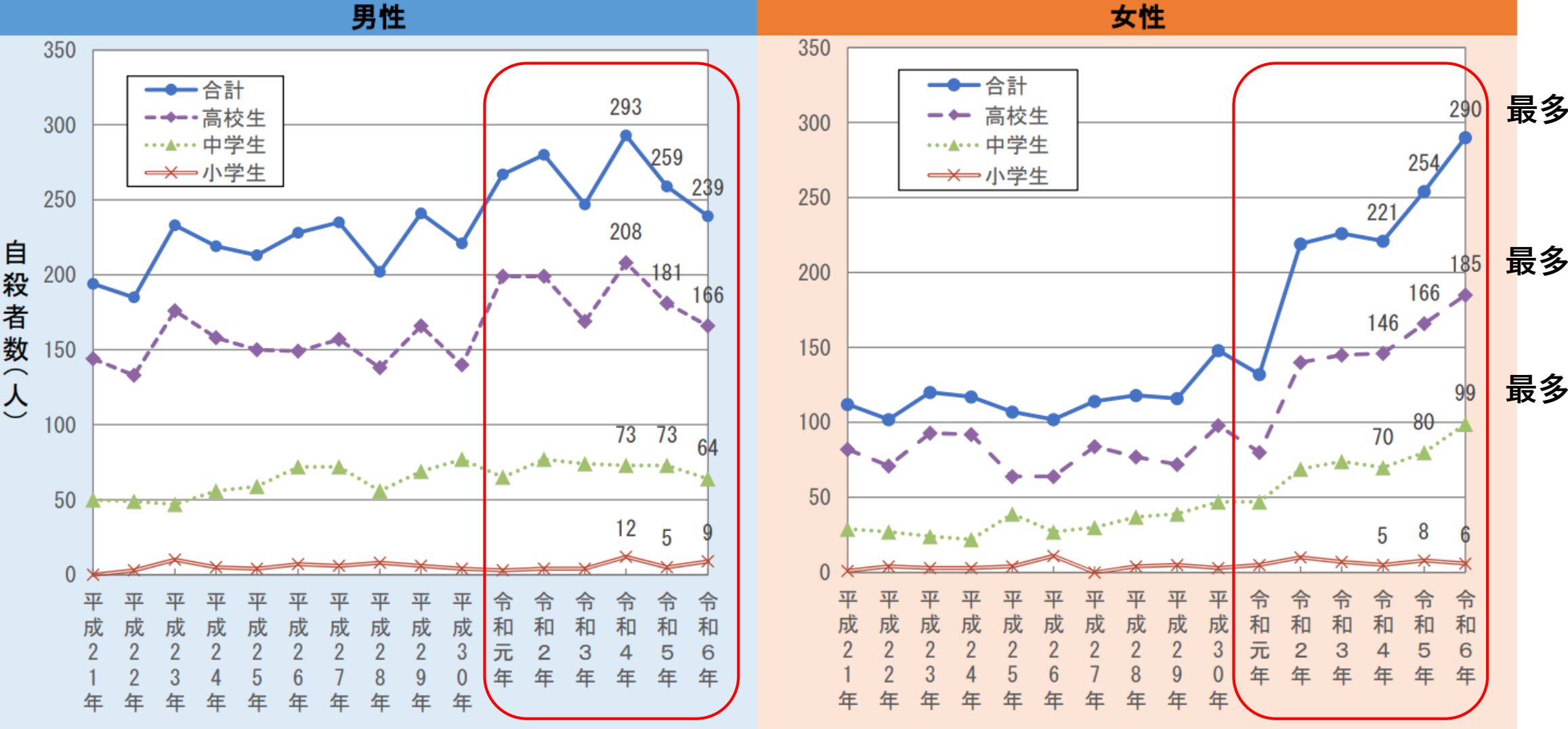


最多

出典：厚生労働省令和6年中における自殺の状況

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

全国 小中高生別、性別自殺者数の年次推移

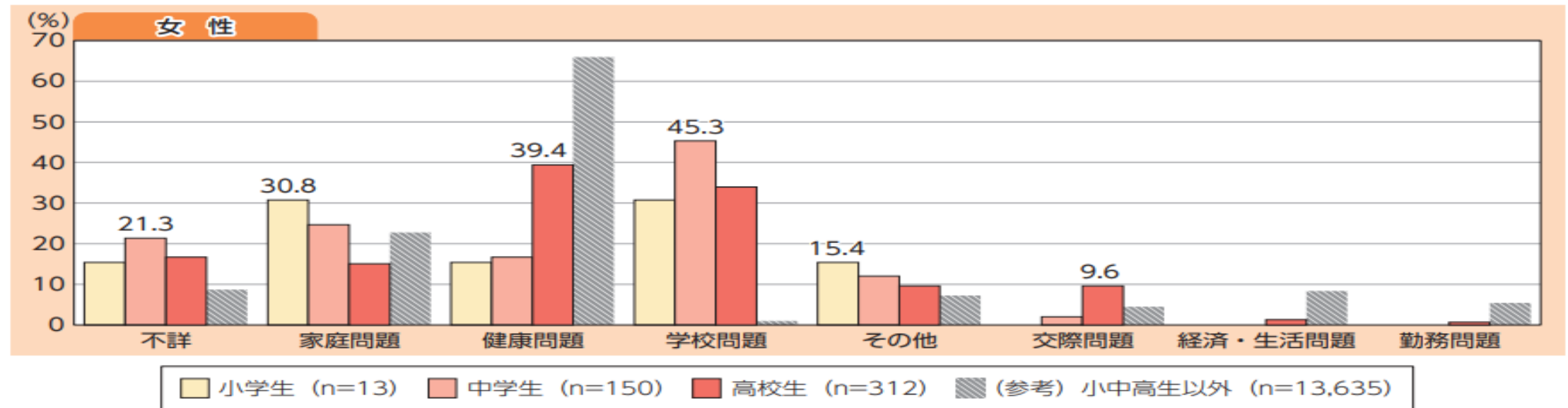
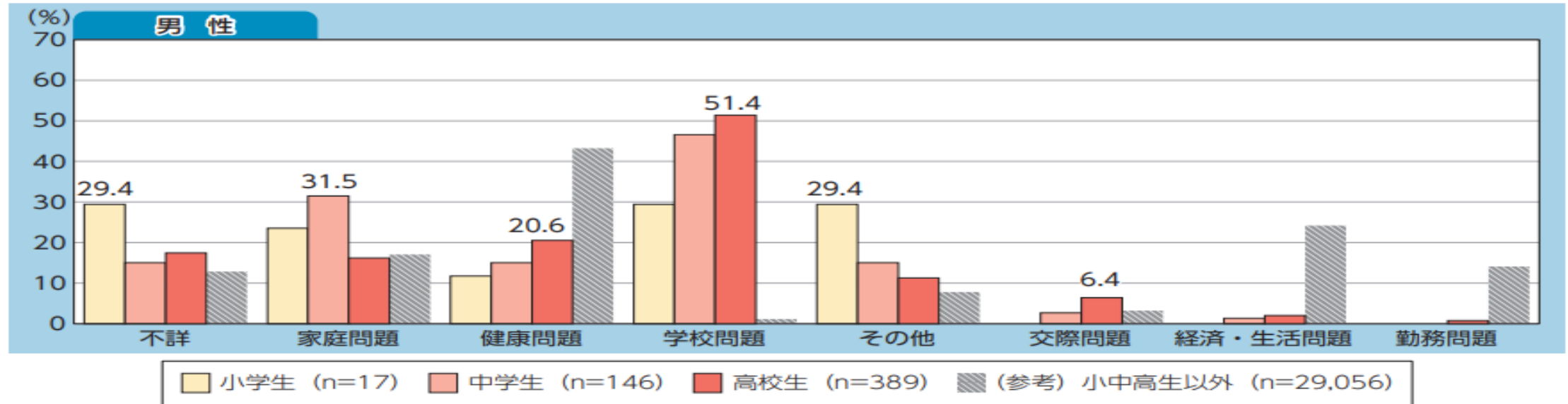


出典：厚生労働省令和6年版自殺対策白書

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

全国

【参考】（2022～2023年）性別にみた小中高生の自殺の原因・動機（大分類）の割合

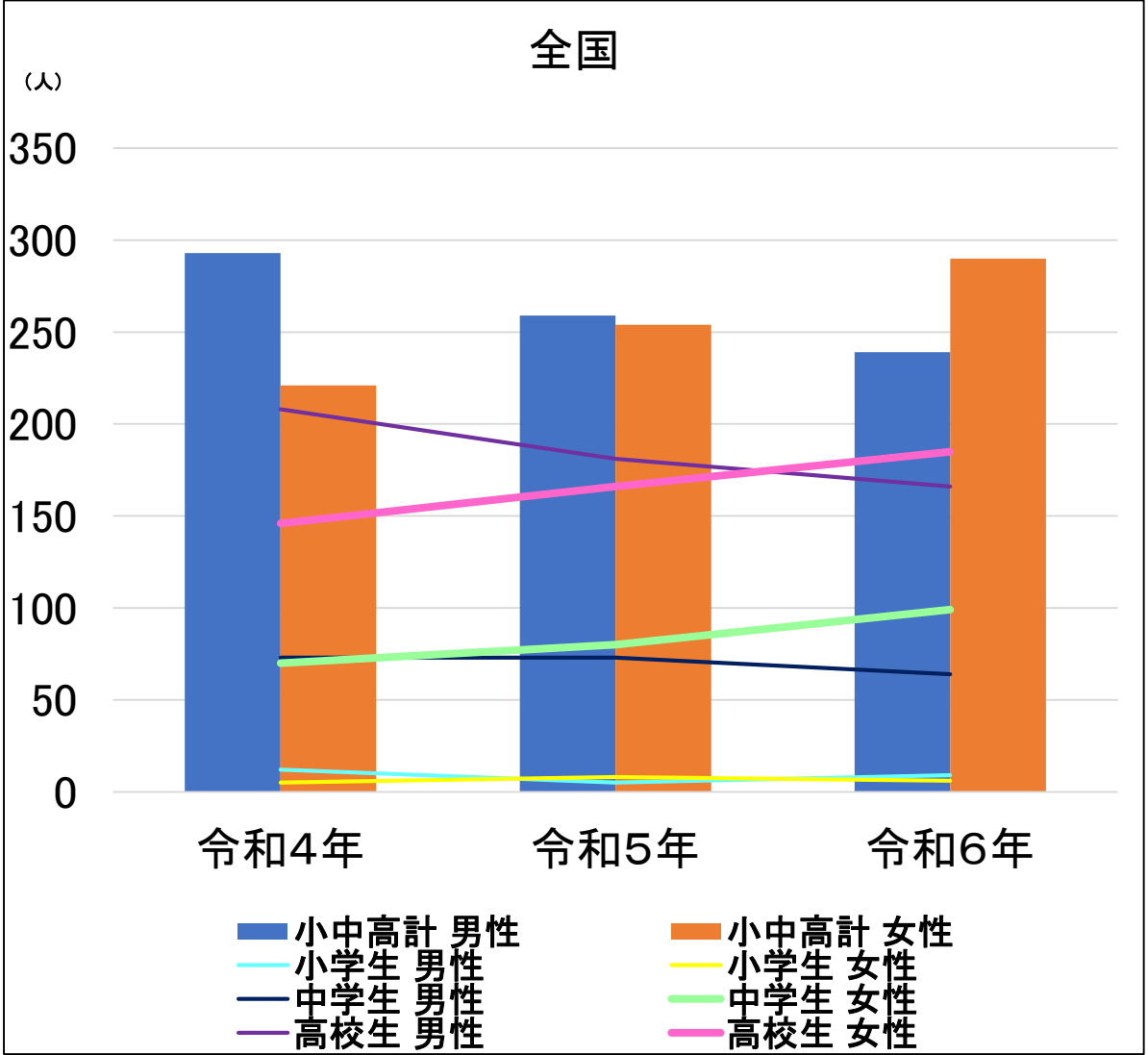
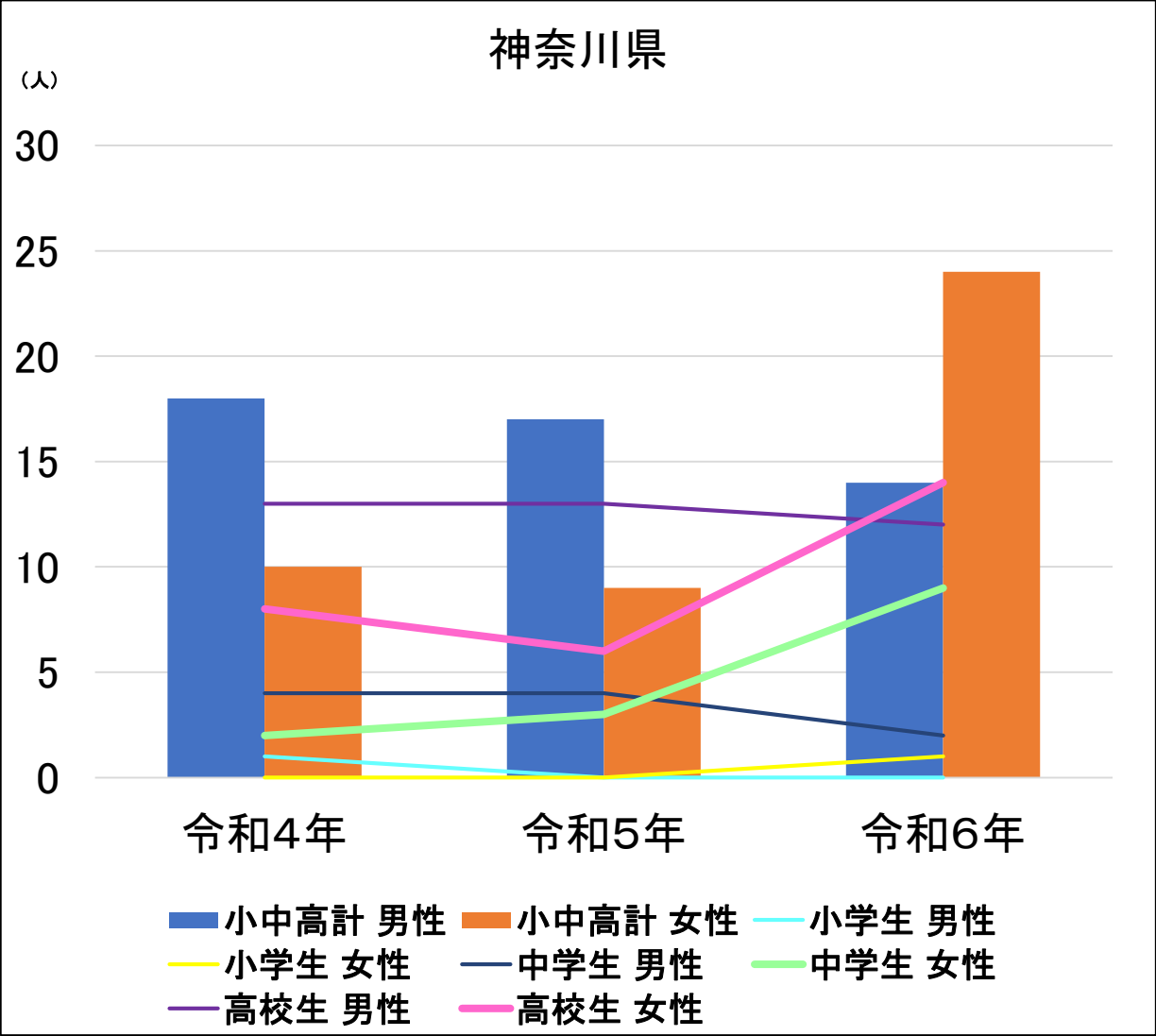


※新原票では、自殺の原因・動機は、自殺者1人につき4つまで計上可能であるが、原因・動機の大分類ごとの傾向をみるため、同一の大分類に2つ以上該当している場合には1つとして集計している。

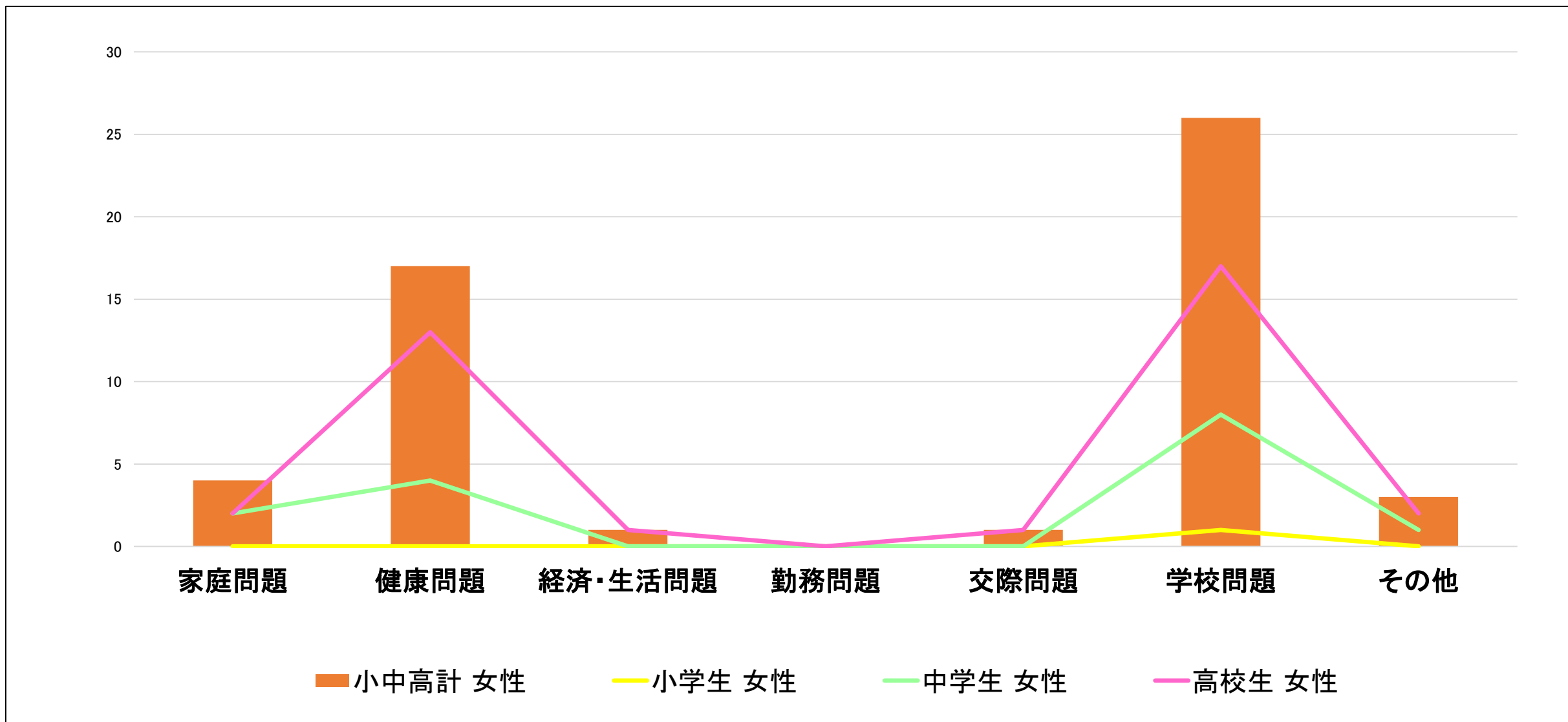
出典：厚生労働省令和6年版自殺対策白書

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

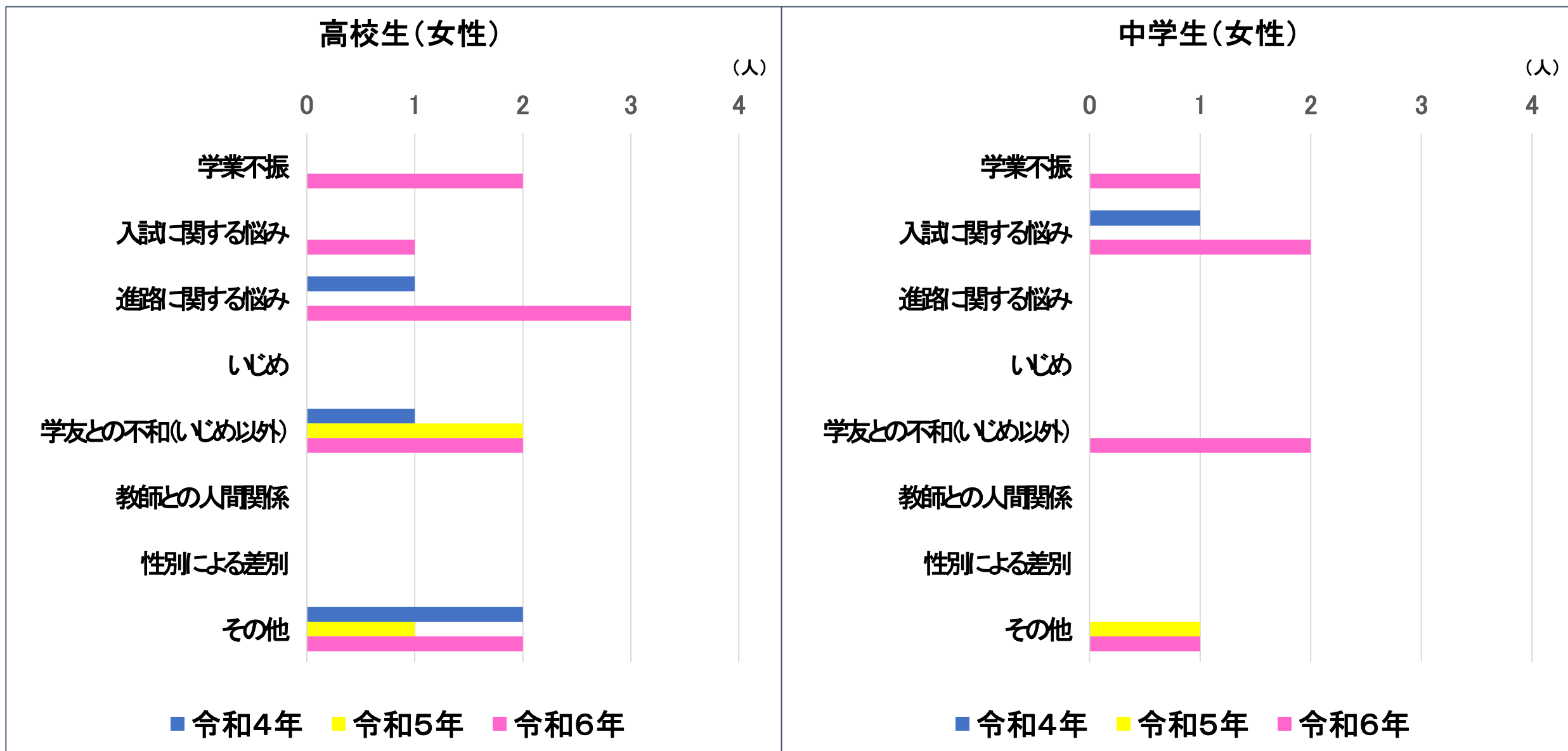
小中高生自殺者数 年次推移（令和4年～令和6年）



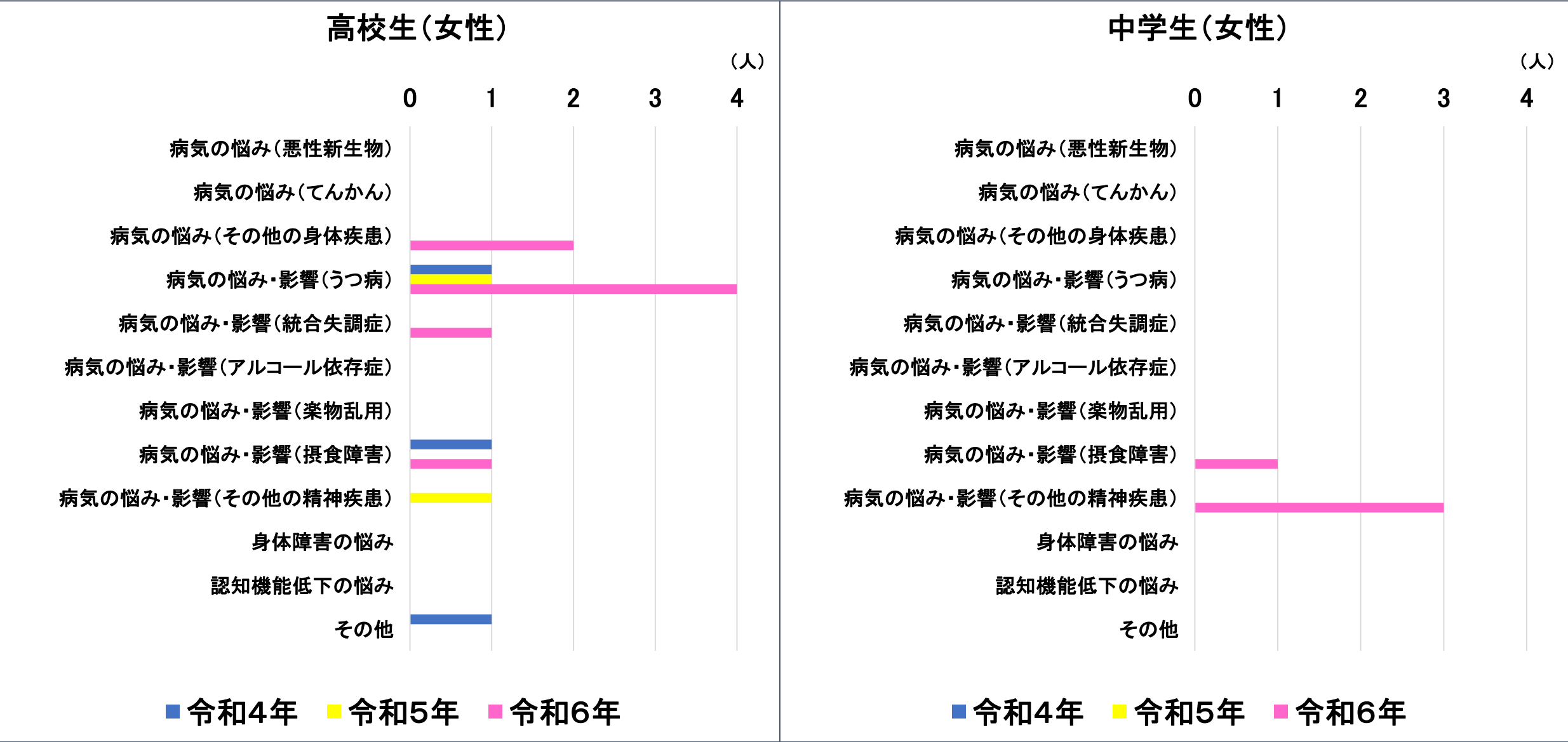
神奈川県 女子小中高生自殺者数 動機別年次積算(令和4年～令和6年)



神奈川県 学校問題の内訳の年次推移(令和4年～令和6年)



神奈川県 健康問題の内訳の年次推移(令和4年～令和6年)

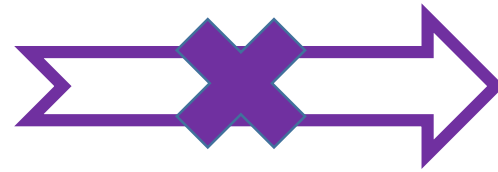


まとめ

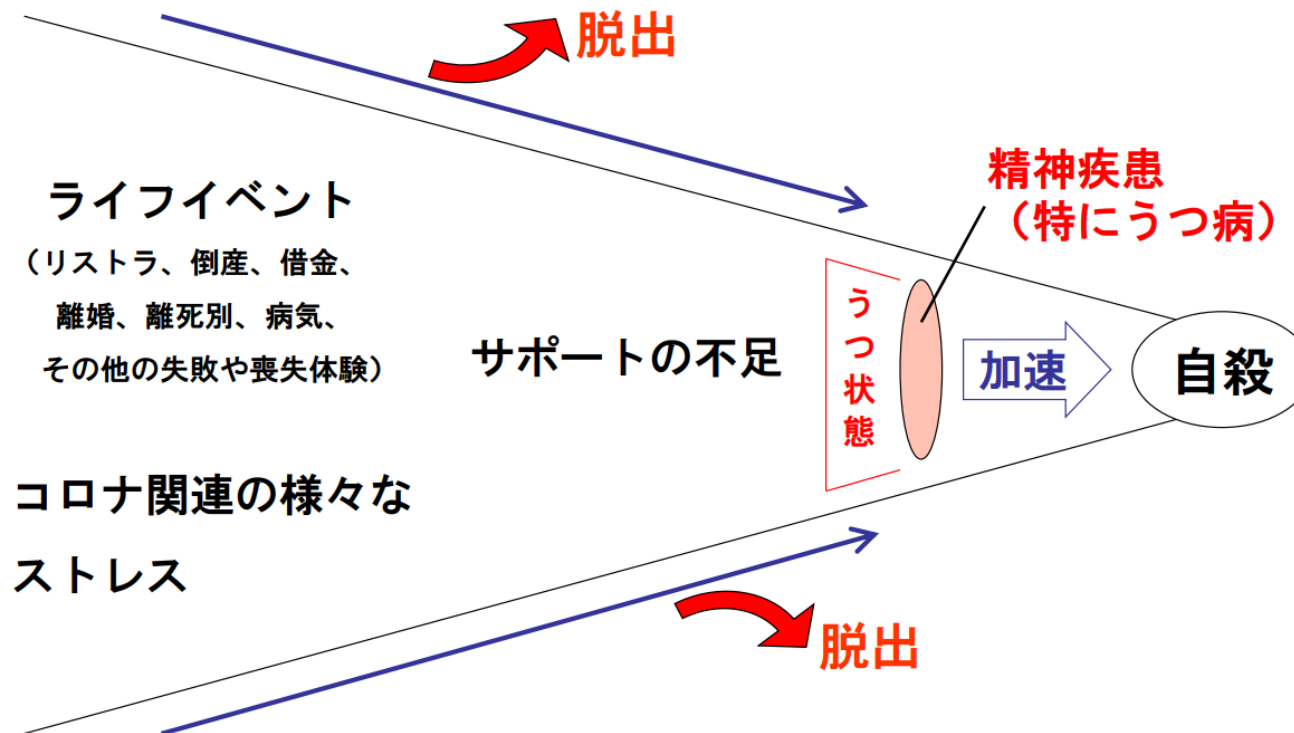
令和6年度神奈川県自殺の状況は、

- 自殺者数は、24人減少し、1342人となり、全国で2番目の高値。
- 自殺死亡率は、14.5で、全国で5番目の低値。
- 年代別自殺者の割合では、20歳未満、20歳代、30歳代、50歳代で全国値より高値。
- 50歳代、40歳代、20歳代の順で自殺者数は多く、令和に入り増加傾向。
- 20歳未満、20歳代、80歳以上の自殺者数は、10年間で一番多い。
- 原因・動機別では、「健康問題」、「経済・生活問題」、「家庭問題」、「勤務問題」の順に多い。20歳未満では、「学校問題」が1/3を占めた。
- 手段では「首つり」が、場所では「自宅等」が多い。
- 自殺未遂の有無の割合は、女性では約3割を占め、若年女性に多い傾向。

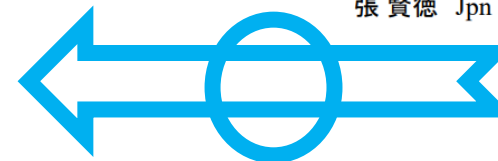
生きることの阻害因子
ウェルテル効果



自殺プロセス



生きることの保護因子
パパゲーノ効果



張 賢徳 Jpn J Psychosom Med 56:781-788, 2016

(作成 : 張 賢徳)⁵